

昭和9年(1934年)設立

公益社団法人 昭和経済会

昭和経済

Manager Association of Japan

第64巻10号

25年 10・11月号

国会図書館永久保存書

[時局論壇] 『原子炉減少』への始まり 原発再稼働への焦点
消費税増税の論点 金利暴騰リスク、より深刻
エジプト政変 真の民主主義不在の闘争

橋川 武郎
伊藤 元重
山内 昌之



シェイクスピアの生家（英国） ストラトフォードアポン・エイヴォン

人間社会は今日まで幾多の歴史的試練を経て、その存続を得てきました。

その間、私達は経済社会の生活の中で、自然科学への洞察は驚きを以て、文化科学への触発は閃きを以て発展に寄与してきました。科学技術の進歩と開発は人間の英知を以てこれに臨み、文化科学の啓発と振興は人間の情操を以て、限りなく高めてゆかねばなりません。

歴史のいかなる発展過程においても、常に人間の尊厳をうたいあげ、自由と平和が約束される豊かな人間社会の存続が、私達の目的であり実践であります。

昭和経済会は、伝統を重んじ、時代の変化に機敏に対処しつつ、この普遍的な理念のもとに、日常の企業経営と經濟活動を通して、さらに公私經濟の発展と推進に役立つ啓発、協力、親睦の団体として、その使命を果たしてまいります。

公益社団法人 昭和経済会

公益社団法人 昭和経済会の案内

(元財務省大臣官房所管)

創立と趣旨

会員制の企業家、經營者団体で我が国の「公私經濟の発展助長と会員相互の連絡並びに親睦を図る」目的で、一九三四年(昭和九年)五月十五日創立され昭和十四年、大蔵省から社団法人の許可を受けました。

主な活動

- ① 会員相互の啓発、親睦、協力
- ② 内外の經濟、政治、文化、學術の定期講演会
- ③ 政府、関係省庁への要望と提言
- ④ 専門委員の法律、稅務、經營相談
- ⑤ 海外派遣留学生奨学基金の活用
- ⑥ 月刊「昭和経済」の発行

□□□□□□□□□□十月・十一月号・目次□□□□□□□□□□

卷頭言	佐々木誠吾	(2)
米国の原発計画の凍結、廃炉の増加		(13)
〔時局論壇〕 『原子炉減少』への始まり 原発再稼働への焦点	橘川 武郎	(32)
経済の精神	山内 進	(37)
〔時局論壇〕 消費税増税の論点		
金利暴騰リスク、より深刻 エジプト政変	伊藤 元重	(48)
眞の民主主義不在の闘争	山内 昌之	(54)
わが回想記（その一）	堀江 忠男	(59)
東京五輪開催		(65)
対ASEAN		
協力強化 日本の戦略示せ	白石 隆	(69)
国家資本主義のワナ 守るのは繁栄か、体制か	土屋 英夫	(74)
日本の若い人達へ (2)	ランコ岩本	(78)
昭経俳壇		(82)
家庭内の犯罪		
後記隨想	佐々木誠吾	(86)
表紙絵のことば	関根 常雄	(114)
特別賛助会員		(116)

卷頭言 佐々木誠吾

既定路線の消費税値上げ

経済指標を見極めたうえで消費税の値上げを自ら決めたいと慎重な態度を崩さなかつた安倍さんが、一昨日、消費税を来年4月から3パーセント値上げをして、8パーセントに値上げすると正式に表明した。私は数か月前から消費税の三パーセント値上げはやむを得ないと、ここでも書いていたが、それが決定されたことで経済の落ち着きが却つて作り出されたと思つていい。世間はこの決定を受けたとさほど動搖することがなかつたし、経済界はそれを織り込んで安倍さんの表明を遅しと思つていたに違いない。いざ決まつたとしたら、喧々諤々の消費税値上げ反対の騒動は静まり、街なかは落ち着きを取り戻し、連日の街頭の反対デモも嘘のように止んでしまつた。好調な経済回復の指標を以て、

値上げは必至を裏づける結果になつて、財政再建を掲げる安倍政権にとつて一つの難関を突破したことになる。問題は、消費税の値上げによつて低所得者層の、弱者に対する配慮をいかに行つていくか、それが政治の果たす役目である。弱者の消費者に対する負担の軽減を考慮した政策が必要である。

それに伴つて断行してもらいたいのは行政改革である。今まで何回となく言われてきておりながら、少しも進展する気配がなかつた。安定した政権下でしかできないことゆえ、これから日本の進む道筋をつけるためにも、安倍さんには強力な布陣を以て取り組んでいきたいものである。巨大化し、肥大化した行政組織は、財政の圧迫要因にもなるし、硬直化した官僚組織は行政の効率化を停滞せしめる事にもなる。国民の経済的負担軽減になつて、経済生活に対する国家と政府の役割を軽減して、政府の役割は最低限の分

野にとどめて、民間の正常な機能を喚起せしめるような健全なスキームに立ち上げているべきである。得てして忘れがちなこの問題であるが、安倍政権下で、長期的な視点に立つて受け入れやすい展望を国民に示して是非取り組んでもらいたいものである。

一方、企業減税のタイミングをはかつて、より効果的に実施して貰いたい。消費税率を挙げることによつて生じる企業の生産活動と売上の減速をカバーし、更なる一段の競争力を高めていく必要がある。企業業績は懸命の努力が報われて、好調な決算に結びついてきているし、これが勤労者の賃金向上に結び付いていくような環境を持つていかなければならぬ。難しい舵取りの場面がこの先まだ続いて行くが、強力な安倍政権の実力を以て、政治の賢明且つ大胆な発想と実行力が尚試されるところであり、この点を大いに期待している。

十月一三日

TPP国際会議

バリ島で開かれているTPP国際会議の模様が、連日のように新聞紙上に報道されているが、旗振り役であり、指導役のオバマ大統領が緊迫した議会の状況で欠席しているので、進捗状況がはかばかしくない。原則一〇〇%関税撤廃の中、各国の国内事情を反映して関税交渉も議論も試行錯誤して難航を極めている。大詰めにきて尚、一部品目での一致点を見いだせないでいる。年内妥結を目指して懸念の状況だが、ここにも主役を務めるオバマの不在が影響して強力な政治判断を得られないでいる。これは会議に協力してきた関係国に、失望とマイナスの影響を与えないわけにはいかない。オバマはこの国際会議に万難を排して出席すべきであった。並行するように開かれたアイペックも然り、

海洋進出をもくろむ中国の出席は漁夫の利を得て活発な展開を行つており、オバマの外交上の失政は明白である。日本の果たす役割こそ、重要な場面となつてきた。

ところで、日本でもコメ、麦を初めとして聖域とされていた農産物五品目についても、完全な関税撤廃を前にしては、頑固な姿勢をとることは難しく、切り込んだ決断は不可避の状態である。各国とも利害が交錯して、完璧な条件を持ち帰ることはできないし、どこかで妥協点を見て会議としての結論を何とかして出さねばなるまい。お互いに多少の犠牲を払つて推進していくしかない。各国の協力のもと、平和的な国際関係を維持発展していくために、協定は是非とも必要なこと、その一点に向かつて日本の安倍さん初め関係者の賢明な努力の様子がうかがえる。この際、オバマに代わつて安倍さんの獅子奮迅の活躍を世界に示す絶好の時である。

日本国憲法の前文には、次のように記している。

「日本国と国民は、恒久の平和を念願し、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼し、私たちの安全と生存を維持しようと決意したのである。そしていずれの国家も自國のみに専念して、他国を無視してはならないと確信した」と高らかに宣言している。

此の政治道徳の普遍的理念を、自ら TPP の国際会議で發揮して、日本の公正な普遍的な考え方と立場を強調して他国と連携し、安倍さんはオバマに代わつて会議を大局的に指導していくてもいいのではないだろうか。そうすれば、日本国憲法の精神と理念が、これからの中華人民共和国社会に大いに發揮されて、平和と、安全と、生存を確保される国際社会の構築に、大いに寄与していくに違いない。

十月九日

緊迫のシリア情勢に待つたか！

化学兵器を使用して一四〇〇人からの女子、子どもを殺害したとして、アメリカ軍によるシリアへの空爆が秒読み段階に入つたことから、世界が固唾をのんで、その成り行きに一喜一憂している。二十九日イギリス議会はキャメロン首相が提出したシリア攻撃に対し反対多数でこれを否決した。これを受けてキャメロンはアメリカとのシリア攻撃を断念した。オバマ大統領のショックは隠せない。アメリカ国内にもシリア攻撃に反対する世論が高まっており、大統領の決断だけでは、攻撃の正当性を訴える力はしづらくなってしまっているのが実情である。

今から九年前の二〇〇三年三月二十日、イラクの化学兵器使用を理由にサドム・フセインの打倒を旗印にアメリカとイギリスはイ

ラクに攻撃を行つて侵攻したたが、結局のところ化学兵器は見つかなかつた。フセインは馬鹿だから、剣を振りかざし威嚇的に行動するばかりで、はつきり持つてないよと云つて国連調査団を受け入れていればいいのに、馬鹿は死ななきや治らないで、振りかざした剣で自分の首をはねてしまつた。あれほどの馬鹿はいないだろう。そのバカのフセインを倒したもののは、戦後の收拾に大きな犠牲を課せられてアメリカは第二のベトナムに遭遇したのである。今まで同じような理由でシリアへの攻撃を繰り返して、果たして目算があるのかとくれば、実質的勝算、成果は不透明である。国内外はもとより、厭戦気分が蔓延しているアメリカで、これらを打ち消すほどの資料と説得する力は、今のオバマにはない。中国、ロシアはもとより強く反対している。単独行動がどれほど危険をはらむものか、オバマ自身の苦悩は増すばかりである。

アメリカ国内でも軍事介入に対する反対する民意が強く、是非を問い合わせ、国論は真っ二つに割れていよい。英國が既に議会の反対の決定を受けて、キヤメロンがシリア攻撃を断念、振り上げたこぶしを下ろしてしまった。

こうした状況を踏まえ一步後退のオバマは、自分一種の賭けに出でて議会の承認を求めて、自分の正当性に議会のお墨付きを得ようとしている。苦肉の策である。今のような状態で、議会の承認を得ることは難しいとするのが大方の見解である。既に、賢明な世界はこれを百も承知である。既に、賢明な世界はこれを見抜いて、シリアへの攻撃は先送りされると見、それを期待して動いている。昨日、今日の日本の株式市況は、アメリカのシリアへの軍事攻撃なし、不透明で不安な戦争は回避されると見て、この二日間で600円近い上げを演じている。世界も厭戦気分でおおわれている。シリア攻撃が先送りされたことで、今

晩始まるニューヨーク株式も、恐らく堅調に上昇すると思っている。見通しと期待を込めて、世界の目が賢く動いていることの証左である。

私は江戸っ子育ちで気が短い方なので、解決を焦るあまり一気にシリア潰しに出て今のは硬直事態を解決したほうが的確だとも思うが、しかし、シリアのアサドを消したとしても、あとのシリア国内の政治的、経済的收拾が問題である。フセインを倒した後のイラクを見るように、果たして国内の安全と戦後復興がスムースに行われるかと云えば、むしろ混乱を増長させるのみではないだろうか。アメリカが責任を以てこれを担保できるならば何ら否定することもないが、そこまで確証を得ることはできない。更に混乱を招いて、国民の生命財産を粉々にされる方が可能性としては大きいような気がする。戦争を回避し、シリアの混乱を他の方法で解決する手立

てを立てるべきだと思う。仮にオバマがイラク攻撃を思いとどまつた結果、イランや、北朝鮮が従来に増して狼藉を働くようなことがあれば、それは、オバマの行動を差し止めたブーチンと習近平の責任である。その責任を果たす意味で、ブーチンと習近平はアサドをおとなしく従わせる努力と成果を果たさなければなれば、約束違いと云うことになる。

アメリカが攻撃を断念したとしても、これはアメリカの勇気ある行動とするべきである。力と理性を示した結果になつて、シリアへの強力な攻撃に代わるものとなるに違いない。なぜなら、アサドは化学兵器を含め今までの自国民に対する蛮行は、政治家として断罪されるべきもの思つてゐるからである。アメリカの軍事的攻撃は、アサドなど微塵もない存在だし、赤子の手をねじるようなものであるが、かといつてアサドの野蛮性は決し

て許されるものではないからである。シリアの攻撃を断念すれば、イランの核開発や、北朝鮮の化学兵器の使用を野放しにすることにもなり、アメリカの安全保障上、これを容認することはできないとオバマは云つている。確かにそうであるが、一方、9年前のイラクの攻撃が、その後のイランの核開発や、北朝鮮の政治や化学兵器の疑惑を訂正する効果をもたらしたかと云えば、決してそうではない。イランと北朝鮮の問題は、アラブの春に始まつた国民の民主化のうねりとは峻別されるものではないだろうか。

アメリカが仮にシリア攻撃を断念すれば反対していたロシア、中国は、シリアをアメリカの攻撃から救つたとして、シリアに対しアメリカ以上に貸しを作つたことになるから、その代償を大きく求めてもいいだろう。ちなみにロシアがアサドに反政府グループと和平交渉を呼びかけて、紛争を収束させる

手立てもある。とにかく双方が殺戮の繰り返しを止めて、話し合いに入ることであろう。

そのあっせんを大国であるロシアが仲立ち

すればいい。それすらできないとすれば、ロ

シア、中国は、即ちブーチンと中近平は政治

的、外交的に無能力者と云われても仕方がない。小手先で問題をかき回すもので大きな外交的決断はおろか、指導力さえ發揮できぬハツタリ、見せかけのチンピラにも等しいこと

になる。結局ロシアのブーチンも、中国の習

近平も、口先だけで何もできないし、何もやらないことになつては、なにをかいわんやである。経済的概念を無視した、単なる成り上がりの資源肥満体国、人口肥満体国で終わってしまう国と云うことになり、箸にも棒にもかからない薄っぺらな、反対を唱えるだけの脅し国家に成り下がつてしまふことになる。品位欠落の脅し国家となれば、レベルは北朝鮮と一緒にことになつて、指導

者は国際社会の信用を落し、ご退場いただくしかない分際となつてしまふに違いない。

九月二日

新しい戦争の形態

戦争記念日、終戦記念日と云つた昔の侵略戦争をいつまでも想起していると、認識がいつの間にかずれてきてしまつてゐることに気づくのです。目に見える戦争から、目に見えにくい戦争に代わつてきて、その分恐怖感を禁じ得なくなつてきています。今、アメリカがシリアに対して軍事行動をとろうとしています。地中海には既に攻撃用の駆逐艦が5隻配備されて、オバマがゴーサインを送れば、たちどころに火ぶたが切られて、一方的

に何発ものトマホークがシリアに撃ち込まれるでしょう。目標とされた標的は瞬く間に火の海と化し、場合によつては多くの犠牲者が出てします。軍事施設や、政府機関等が狙い撃ちとなり正確に攻撃が出来てアサド政権に打撃を与え、統治の機能が減殺され当初の目的が完遂されればいいのですが、化学兵器の貯蔵場所などを矢鱈に攻撃して、毒性の化学薬物が拡散されば、別に大きな被害をもたらす事にもなります。化学兵器が使用できないようになるのが攻撃の目的でもあります。難しい選択があつて、悩ましい点もあります。

これからの中で懸念されることは、大国間同士の協調路線は、波風が立つ中でも基本的に崩れることはないでしょう。しかし米、欧と、片やロシア、中国といった大国間の利害得失を巡つて、小国での混乱に便乗した駆け引きが続くことは大いにあり

うことです。地球上の国々に混じつて、国際紛争の火種は尽きないことになります。これから小さな複雑な紛争を契機とした新しい形での戦争が、何かと想定されます。それは見えない抗争、戦争となつて、われわれ現代社会にのしかかってきます。これをいかに防いでいくかが、今後に残された大きな課題でしよう。これを防ぐための国際協調が必要になつてきます。矛盾した感じですが、大国間の連携した防御体制の重要性が分かつてきて、地球を囲むネットワークが相互の結束を固める結果になることもあります。

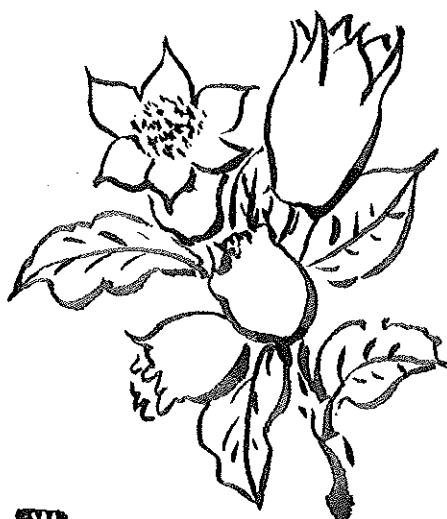
第一に考えられる戦争とは、テロです。小規模ながら、事前に捉えることは難しい、見えないタイプです。

第二には生物、化学兵器を使つた戦争です。影響が広範囲に及び、長期間持続する可能性がある、見えない凶器です。

第三には、サイバー攻撃です。これが又難

解な代物で、国の行政機能を麻痺、壊滅させることのできる、見えない武器です。世の中が便利に進歩していく副産物として、悪の温床、武器として登場してくるもので、市民生活にとって何時兇惡な武器にならないとも限りません。

九月五日



作品 関根常雄

消費税の値上げは既定の路線

税金が上がることは古今東西をとわず、國民から忌避されてきたものであるが、専制独裁政治家のもとならなら大いに抵抗して、デモを起こして反対し、場合によつては騒乱となつて、社会不安を呼び起しあしかねない重大な問題になつてしまふが、開かれた民主政治のもとでは、國民によつて選ばれた政治家たちが、議論を通じ正しい方向性を決めていくものだから、増税がどうしても必要だと云う解決方法として決定されることであれば、これを見つけて受け入れなければならないだろう。それが民意にのつた正しい制度の在り方でなければならない。一方で内外の目が見えてきた既定の路線とはしながらも、他方、経済の動向と客観的整合性を求めることが必要であつて、それがその後に発表されてき

た幾多の経済指標であつた。それを見る限り、デフレ脱却と、経済的回復を示す確たる数字が、三パーセント消費税値上げの許容範囲を示すものとなつて、特に安倍首相の決断を確たるものとしてのだろう。折しも国土交通省の発表によると地価が、商業地を中心に上がり始めてきたという朗報である。一般的に余り口に出したがらない地価の上昇こそ、デフレ脱却の大きな援護射撃である。地価の上昇はデフレ脱却の確定的指標にもなる。安倍さんのこのところの活動と流れは全体に憑いており、渡りに船といつていいくくらい運についている。もちろん本人の洞察、判断、意思、決定と云つた政治家としての素養に依るところばかりだが、気運は破竹の勢いであり、しかし高ぶつたところなく冷静さは頼もしい限りである。

目下、東奔西走の超ご多忙の身だが、昨日も国連総会に出席のためワシントンに向け

首相専用機で羽田から出発した。同行する賢婦人、愛称・アツキー、昭ちやんの笑顔と姿を見て道中を安堵した。家庭内野党を以て任じる昭ちやんは率直であり、それを許していれる首相は寛大であり包容力があつて、ともに最大の理解者であり、日本の良き家庭の模範生である。奥さんの言動はつつましやかなものであり、なお正鵠を突いて異論をはさむ余地は全くない。消費税についても、奥さんのささやかな家庭の範を示して大いに意見を申し述べているに違いない。何よりも、首相の原発推進に、涼しい顔で原発反対を唱えていること自体、概ね安心して重要な立場の信頼に値するものである。内助の功の大きなものを感じさせて、安倍さんの心身の状況は奥さんがついている限り安泰であり、我が家にも似たところがあつて同感し、うなづくところ頻りである。横着になつてきている自分自身に気づくこともやるせないが、信頼

するかあちやんがいるから何があつても安心である。昭ちやんと一緒に、知的であり品があつてどこに出しても安心である。さてここで良妻は宝である、なんてのろけていたのでは、外に出て女性から振り向きもされないおっさんになつてしまふことも心配である。飛行機のタラップを登つて振り向いた笑顔の夫妻のスマートな姿に、今の日本の、日本らしい姿を感じてわれながら享けに入つてある。イギリスの諺にも簡単明瞭なことばがある。「良妻は家の宝」と云うことである。日本の古くからの「子は宝」と同様どこの国でも家庭の切り盛りをして、家内安全、健康第一と云つて夫を上手に働かせているこの秩序こそ、社会の国家の原点である。阿部さんの女性の積極的な社会進出の提言は、アベノミクスの有力な政策提言の一つでもあるが、ひよつとすると昭ちやんの思いを表しているに違いない。

九月二十三日

米国の原発計画の凍結、
廃炉の増加

原発のコスト競争力の低下を理由に、今、アメリカで原発計画の凍結や、廃炉が相次いでいます。今までにアメリカは104基の原発を抱えていますが、これらは1980年以前に完成されたものが多く老朽化が深刻です。したがつて補修費用がかさんで採算が悪化してきています。結果、原発を廃炉にするケースが増大しています。更には原発からの事業者の撤退も相次いでいます。理由が二つ挙げられます。一つは、「シェール革命」です。シェール革命によって天然ガスの価格が大幅に下落しました。原発建設には膨大な資金が必要です。原発投資の採算が悪くなつて

きて、コストの回収に自信がなくなりました。二つには、東京電力の福島第一原発事故の現実的恐怖です。クリーンエネルギーと云いながら、まったく正反対の事象を生み出し、人間社会を恐怖のどん底に陥れているように、今や時流は人々の厳しい目と反省の結果であります。原発の安全性の疑問視と、使用済み核燃料の解決なき処理と、その放射能対策です。八方ふさがりの手詰まり感の台頭です。原発大国の米国では、オバマ政権が今も原発政策を積極的に推進していく政策を掲げてきていますが、ここにきて経済性を重視した民間の大きなうねりが現実的になつてきました。オバマさんと云えども、この経済の大きな流れに逆らうこととはできません。原発の問題は十年単位で大きく進み、世界の潮流が変化していくことでしょう。原発に関しても市場経済に乗った原理原則、即ち経済性を無視することはできません。市場原理に乗つ

た民間経済の中では、既に次の使命を担つた製品が、大小を問わず必ず出現してきます。

これこそがシュンペーターが云うところの経済のダイナミズムなるところの、「経済の創造的破壊」といつたほうが適切であります。では、政府指導の経済とてどうにもならない適切な経済機能を果たしている社会にあっては、経済の力学的法則であります。日本で起きた原発事故と、その収束は二年五ヶ月たつた今も実現できず深刻な状況が続いており、長き将来にわたって向き合っていく課題であります。放射能汚染は今も大地に、海に、空に拡散されています。メルトダウンによる放射能汚染の現場を除去することはできません。その間も放射能の汚染水はいたるところから漏水していることは疑うことができません。これをはつきり説明しない東電の隠蔽体質は改まらず、いたずらに事故の拡大をもたらして後手後手に回るばかりで、改善の跡は

見られません。野田前首相の原発事故の収束宣言は、出鱈目で、いかさまでした。

猛暑の続く今年の夏は、渴水も心配されますが、電力消費の節減努力と、新たな電力供給の細々とした活路によって、今までのところ電気の不足をきたさずに来ております。細々とした活路、そして原発が稼働していない現状に立ってみれば、細々とした活路は将来大きな供給源となつて、民間経済を支援していく原動力と育つていくに違いありません。そして国民の意識が大きく転換していく時こそ、脱原発の運動が成果を絶賛する時となるでしょう。今東電の広大な敷地内には、何百個と云う巨大なタンクが並べられています。この中に、原子炉内の冷却水として使われた汚染水が、溜まるにたまつて、この先もその量は山となつて際限なく積み上げられていきます。置き場所も、保管場所もなくなつて、いつたい何を考えているんだと叫

びたくなります。将来の子孫に原発の残骸を残し、放射能の汚染の恐怖を残していく愚行だけは避けなければなりません。原発の恐怖は、その時になつてみなければわかりません。しかしその時になつた、その時こそ、人間社会の避けがたい破滅しか残つていないこと理解すべきであります。

八月六日

双子の子

妻は英語が得意で、昔から人に頼まればは家で子供たちに英語を教えてきていました。英語を学んだ生徒がその後英語を突破口にしてすべての学科で自信をつけ、優秀な成績を

収め東大に進んだり、早慶や一橋と云つた有名大学に進学して事後報告をしてきています。その後も立派な社会人として活躍しているところを見ると、妻の語学力はかなりの水準かなど、私には関係ありませんが、認めざるを得ないことかもしれません。教育とはたとえば英語にしてもそのことだけではなく、人格的な教育も含まれている点を看過しがちですが、子弟の敬愛関係を見ていると、英語の教育を通じて人間的な教育が無意識のうちにぐくまれているのではないかと確信しております。英語にしても、国語にしても、数学、歴史に於いても共通して言えることだと思います。がり勉でもいいのですが、その過程で人間として磨かれて行くことが、眞の教育だと信じて疑いません。私の経験でも断言できる真実であります。

妻のこと引き合いに出して教育を語つてるので、何か妻が人格的に優れていることを力説する気持ちは毛頭ありませんが、実例として考えると、そして私の拙い経験からすると、知識の習得、即ち勉学と同時に、特段に科目を設けて決めつけなくとも人間教

育も備えていかないと、偏った人間として、社会に出てから的人生について無駄な道を歩む結果になってしまふケースを散見するのです。そのことはその人の一生の問題にもかかわつてくるので、決していいことではありません。誰しも立派な人間として社会に臨み、実力を發揮して幸せな人生を送りたいと思うことは当たり前だからです。しかしそこには無理があつてはいけません。無理ということは道理に外れることです。人に損害を与えたり、人を押しのけて前に進むことではありません。人の役にたつ事、人に利益をもたらすこと、人に手を貸して人を引き立てていくこと、こうした些細なことが必要です。涵養は、とりわけ事業家にとって、企業家にとって、利益追求に走ることは当然のこととして結構なことですが、人のためになること、社会のためになること、社会を行つていくことが大切であります。この

原則さえ守つて行けば、その企業は社会に歓迎されて支持されるから、堂々と利潤をあげて繁栄の道を進むことができるでしょう。つまり道理にかなつて働いた結果だからです。妻は知らないうちに英語の勉強を教えながら、人としてこうあるべきだということについても、身を以て教えているのかもしれません。大学に入学しても、社会人になってからも親しく手紙を書いてくるところを見ても人間味に満ちた人だなあと感服させられることがあります。教える側にとつては、教育する側にとつては、つまり教育者はおのずから人格的涵養を得た人でなければ、眞の教育は務まらないことになります。人格的素養を身に着けた教育者は、生徒の長所を巧みに引き出して、これを大きなものに育て上げていくことができるでしょう。

いに私の家に来ています。私の家と云つても、別に私が教えているわけではなく、私の妻が教えているのです。双子の可愛い女の子が家に英語の勉強に来ていて、テーブルを挟んで勉強しているのですが、どちらがどっちの子だかわからなくて、しばらくは困っていたそうですが、最近ようやく区別がつくようになりました。勉強しているときにもふざけてばかりいて、とても仲が良い姉妹なので叱ることもできないなどと聞くと、一度会つてみたいと思うのも当然です。そこで八月の六日、私は熱いさなかの午後、早めに家に帰ることにしました。この日の火曜日には双子の女の子が家に勉強しに来る日になつています。二人ともヘルメットをかぶつて自転車をこいで環八通りを越して、玉川堤からやつきます。雨の日はお母さんが車で送つてきたり、迎えに来たりしています。私は勿論お母さんにも会つていませんが、四人の子供を育

てているとは思えないほど、とても静かな人だそうです。この日こそ双子の女の子に会えるチャンスだと期待していましたし、ちょうど運よく一人の孫も遊びに一泊しにくると聞いていたのです。午後四時にオフィスを出て、家に電話をしたところ、双子の女の子と、孫の佳と麗が来ているというのです。尾山台駅に着いたら、近くに最近店を出したばかりのから揚げ屋さんによつて、鶏のから揚げを六人分で十二個買つてきてほしいというので買つていくことにしました。六人分と云うので確かめたところ、何と双子の女の子には、まだその下に双子の姉妹がいるので合計6人の女の子が今日は集まつていることになります。下の双子も女の子で、見分けがつかないほどそつくりな顔をして可愛さがいっぱいの子だそうです。下の妹たちも女の子で、双子なのです。面白い魅力的な組み合わせにびっくりして感動してしまいました。そんな

不思議なことも世の中にはあるんだと思いながら、これこそは神様からの授かりものであつて、大きな幸せの贈り物の何物でもありません。是非その天使たちに会いたいもんだと胸を膨らませて家路を急ぎました。

尾山台からの家路に熱い日照りをよけて木の下を選んで早足で行きましたが、折から猛暑で汗だくです。玄関のドアのカギは掛けてなかつたので気づかれないように家に入つてそのまま一階に上がり、体の汗を拭きとつて落ち着いてから下の居間に入つていくと、孫の佳ちゃんと麗ちゃんが大騒ぎして迎えてくれました。後続して双子のお姉ちゃんがそつくりそのままの姿で、下の双子の女の子もにこにこして私を迎えてくれました。なんと素晴らしい仲間たちでしようか。小さいいAKB48のメンバーに取り囲まれたような気持で、心は飛び跳ねんばかりに楽しくなつてしましました。妻が言つていた通り何

と可愛い子供たちでしょう。それに上の双子の女の子は端正で賢い表情で流石にお姉さんらしく、妻の指導で英語で自己紹介をして礼儀正しさにびっくりしてしまいました。下の双子の女の子は小学校二年生です。おねえさんたちとそつくりです。背丈が小さいのに年違ひの双子だということが分かりますが、背丈が同じだつたら、そのまま四人の同い年の姉妹と間違えてしまいそうです。端正さは日本的ですが、はつきりした顔立ちは西洋人形のようです。如何にも健康的で明るい感じの子だから、大きくなつてもすらりとした涼しい体形の女の子になるでしよう。下の双子の女の子も、夏休みに入つて家にいるので誘つてやつたそうです。妻が下の子の姉妹たちに会うのも、今日が初めてとのことでした。上の双子の子の名前はそれぞれ、「あきほ」ちゃん、「ゆきほ」ちゃんと云います。下の双子の名前は、「みみ」ちゃん、「りさ」

ちゃんと呼びます。まるで空から舞い降りて、きた天使たちです。勉強が終わつた後なので、解放されていかにもうれしそうです。これから妻が作つてくれる冷やし中華そばを楽しみにしています。双子の子でもよく観察してみると、性格が微妙に違うことが分かりました。上の双子の「ゆきほ」ちゃんは、妻が食事の支度をしていると、そばに来いろいろと手伝うのですが、一方の「秋保」ちゃんは全く意に介さずに、みんなと勝手に遊んでいます。そつくりは顔なのに性格や、考え方が同じでないことが分かりました。それでもなお不思議におもつたことは、まるで一人の子が、同時に全く別々のことをしているような、光景ですで、自分自身が錯覚した世界にいるような気がしました。

みんなで「ちそう」と一緒に食べることにして、大きなテーブルに夕餉が用意されるとになりました。冷やし中華そばのほかにも

食べ物が用意されましたが、その中にイカの刺身がありました。子どもたち全員が異口同音にイカの刺身が大好物だというのも愉快でした。刺身は小生が酒のつまみにと用意されたものですが、子どもたちと一緒に食べるのは夢にも思いませんでした。私は、孫の佳と麗のほかにも、何とも可愛らしい女の子に囲まれて食事をする好機を与えられていることを、妻とともに感謝して祈る気持ちでおりました。双子の女の子を二組育てていてお母さんも大変だと思いますが、幸せはその何十倍にもなつて戻つてくることでしょう。それどころか今の毎日々が、その幸せに充たされていることでしょう。今日の私の家では可愛い子供たちに囲まれて久しぶりに味わえた大家族の、楽しい団らんのひと時です。その場での主としての気分は、まるで王様になつたような気持でした。もし私が总理大臣だったら、四人の子供を育てて一生懸

き甲斐あらむ

八月七日

灼熱の日本列島

命のお母さんに、子育て教育優等賞、兼、感謝状を贈呈させてもらうに違いありません。総務省の役人に命じて早速贈呈式に臨み、国を代表して敬意を表することでしよう。窓の外を見ると、空は夕映えに赤く染まって、辺りが次第に日暮れできました。日照りの暑さが和らいで、食卓に着いた私たちですが、それを祝幅するように庭一杯にひぐらしが鳴き始めました。

灼熱の日差しに日本列島の真っ赤っかのぼむらなるべし
教会の帰りに駅の遮断機を待つ間の熱に目も眩みけり

名に聞きし四万十川の清流も四十一度の記録しるせり

本邦に四十度を超す地名挙げテレビ報道の猛暑つたえり

放射能汚染に猛暑の日照りにて如何ばかりなり被災地の人

孫の佳、麗とが四人の天使らと楽しく遊ぶ我が家なりけり
利発なるいとし双子の姉妹きて妻に英語を学びおるなり
双子なる姉妹を二組授かりて母は恵まれ生

列島を連日の猛暑が容赦なく襲つています。この日の観測では高松の四万十川で、史上最高の四十一度を記録する猛暑となりました。同じような暑さを記録した地名に、九

州の福岡と、山梨の甲州、さらに陸続と名前
が挙がつてあります。熱中症に犯された
り、倒れたりして病院に搬送される人も多く
全国で二三〇〇人以上もあつて九人の死者
が出るあります。救急車の出動も頻繁で
大変な状態です。気象予報に出てくる日本列
島の地図を見ていると、全国津々浦々が真っ
赤に染まつて、サツマイモの焼きあがつた形
のようで、正に熱々、ほかほかの焼き芋そつ
くりです。上空にはうかがう雲の一片すらり
ません。列島が沸騰している有様です。まる
で釜ゆでにあつてあるような感じです。立秋
を過ぎて、こうした状況が今週いつ
ぱい続きそうな予報官の話です。これに抵抗
して、私たちは少しでも体力の温存を図り、
この猛暑が立ち去るまで健康を維持してい
かねばなりません。N H K が注意を促して
「こまめに水分を取るように、クーラーを上
手に使って暑さをしのぐように」と云つてい

ますが、さらに注意を喚起して、睡眠をよく
とつて、不要の外出は避けるようにと付け加
えたいと思います。甲子園では、この灼熱の
炎天下、高校野球の熱戦が繰り広げられてい
ます。投げる選手、打ち向かう選手、応援す
る人たち、心はグラウンドの一点に注がれ得
点にむすぶ球を追つて、青春の闘志を燃やし
ています。

時を同じくしてモスクワの空の下では、オ
リンピックに次ぐ世界陸上選手権大会が開
催されています。開催と同時に世界陸上女子
マラソンが始まりました。私は終始テレビの
実況でその模様を観戦していましたが、日本
選手の三人は懸命に走り続け福士選手が
堂々の三位に入賞したのが圧巻でした。笑顔
を絶やさず、トラックに入ってきたときは満
面の笑顔で、その明るさは天真爛漫と云うべ
きもので、子どものような喜びようです。あ
の笑顔は日本人の笑顔として大きく掲げて

いきたいほどの魅力的なものです。高く跳躍しながらのガツツポーズでゴールを果たしました。木崎選手は四位に入賞しました。一〇〇メートル競争には待望の桐生選手が出場しましたが、十秒三一で予選で惜しくも落ちてしましました。若干十七歳です。これら選手で、世界選手に交じって競技を体験しただけでも天晴れと云うべきものです。将来的な成長が楽しみです。こんなわけで、ボルトの超人的な疾走の姿を見ようと、二日にかけて予選と決勝戦の雄姿と演出を深夜の二時まで観戦する結果になってしまい、聊か、

ききつた大都会に、滝のような大雨があつてもいいなど、ただし被害のない大雨であつてほしいなあと、贅沢な願いを心持つて家路につきました。家に帰つたら汗ばんだ体を風呂につけて今日一日の疲れを流して休養し、三井さんが収穫して持つてきてくれた、トウモロコシと枝豆を茹でて、冷たいビールをぐいっと一杯飲もうと思つています。

八月十二日

終戦記念日

今日八月十五日は68回目を迎えた終戦記念日であります。終戦と云うか、敗戦と云うか、こうした表現はどうでもいいという感じの時代になつてきました。小学校三年生の時です。玉音放送を聞いて立つとき、疎開先の僻地の袋田駅に人影はありませんでした。雷雨がこれからあります。カラカラに乾寝不足氣味で出社しているところです。夏のスポーツの躍動感を堪能している私ですが、今日も六時を過ぎたころには退社しようと思つています。空が何やら暗くなりかけてきて、黒い厚い雲が西の方から広がつてきます。空を搖るがして雷が鳴つてきました。激しい雷雨がこれからあります。カラカラに乾

ラジオ放送は、途切れとぎれに聞く現人神の天皇陛下の声であります。駅構内には私と弟の手を引いてたどり着いた母の三人と、閑散とした駅にぼんやりしている年老いた駅長さんだけでした。あの日も灼熱の日照りでした。蟬が激しく鳴っていました。疎開先にいた私たち三人は、久慈川に沿つて山の中の奥を行つた、与瀬という場所から逃れ、死を覚悟して水戸に向かうため、ようやく駅にたどり着いたばかりでした。

袋田駅は、水戸と郡山を結ぶ水郡線の福島県境に近い駅の一つで、何にもないところで、山間部にできた僅かな平地があるのみです。山間部にできた僅かな平地があるのみで、人の住むようなところではありません。痩せた土地で産物は、こんにゃくと葉タバコのみです。寂れたところですが、ただ駅から寂れた農道を三キロほどの山あいを行くと袋田の滝を背に、袋田温泉があるところです。別に長生閣と云う温泉が一つありました。普段

は全く人気のない閑静なところだつたような記憶があります。疎開のため初めてこの地を訪れたときに、父に連れられて長生閣の温泉に行つたことがあります。部屋から出て谷川に降りていくと谷川沿いに大きな野天風呂がありました。

終戦近いころの昭和18年の春以前から米軍の本土攻撃が行われるようになり、戦況は刻一刻と悪化の兆しとなりました。優秀な指導者であれば、この時期に戦争終結の時期を選ぶべきでしたが、軍は報道管制を敷き、国民に事実を明かすことなく神国日本の妄想を植え付けて洗脳し、現人神の天皇を利用して国民を最後まで戦意高揚に驅り立て、しまいには小さい我々子供まで、一億層玉砕を叫ばせました。一万メートル上空を飛ぶB29の重爆、焼夷弾攻撃に対し、竹やりで応戦させて憚らぬ愚行を演じていました。昭和二十年三月十日の東京大空襲で、下町一帯は火

の海となつて全滅し、一面焼け野原の焦土と化しました。浅草猿若町の町会長をして一人最後まで奮戦していた父は、万事休すと避難して逃げたとき、隅田川を渡る言問橋には先を急いで行つたはずの人たちで既に累々の焼死体の山となつており、前に進むことができぬ有様でした。火炎と熱風が地面を嘗め尽くし、凄惨な、地獄絵図の中を必死で潜り抜け、橋を渡り向島の牛島神社の境内に逃げ込み、奥深い防空壕に入れて貴い運よく助かりました。はつきりした統計ではありませんが、その時のB29焼夷弾爆撃の東京大空襲で亡くなつた人は十万人とも十二万人とも言われています。隣近所には、一家全滅と云う家が何軒もありました。アメリカからあらかじめ避難するように予告があつたとはいえ、備えられるような状況ではありません。これは、アメリカの大規模な無差別攻撃の大虐殺にも等しい蛮行であります。

加えて私たち家族は疎開先の水戸でもB29の焼夷弾爆撃にも遭遇し、命からがら逃げて助かりました。夜遅くなつて、突然夜空を揺るがす轟音と共に、水戸で初めて通った泉町の五軒小学校に、最初の大型焼夷弾が投下され、火炎が瞬く間に広がりました。小さな街はあつという間に火の海と化しました。無意識に覚えていた避難路は、泉町の川又書店脇の道をまっすぐに駆け抜けて、かなり行つた突き当たりを右に折れ、坂道を下つていくと千波湖に出ます。一発の攻撃を受けた瞬間から、とつさにその方向に足が向きました。水戸の叔父の住む泉町から、家族みんなが手をつなぎあつて天王町、石崎町と駆け抜け、千波湖を目指して火の粉の中を必死に駆け抜けていきました。東京大空襲で訓練済みの父は、大きな声を挙げながら逃げ惑う人々を先導していました。前後左右に落ちてくる焼夷弾を避けながら、無我夢中で日の中を逃

げていきました。パラパラとまるで火の粉が落ちてくるようですが、地上で炸裂して閃光を放ち、目が眩み何度も地に伏せたりしました。火の手は瞬く猛火となつて一帯を覆い尽くします。こんなことに負けてなるもんかという気迫が少年の胸にも湧き上がつてきました。逃げるのは必死です。雨あられと降つて落ちてくる焼夷弾に当たつてしまえば別ですが、親子が手を取り合つて逃げていく姿を、神様は見逃すはずがありません。死ぬときは家族一緒にと母の云つた言葉が、私の胸を射抜きました。天の配剤とでもいうのでしようか、手に手を結んで逃げた6人家族の私たちは、パラパラと地上に落ちる親子焼夷弾の犠牲に会わず、千波湖湖畔にある洞窟に駆け込み、助かることが出来ました。

洞窟の上に落ちたと思われる爆弾か、焼夷弾のドスン、ドスンという重々しい音が一晩中、洞窟を揺るがしました。このまま洞窟が

崩れ落ちるかもしれないという恐怖心で眠るどころではありません。ほら穴の入り口によつて空を見上げると、無数の線香花火の火の玉が転がり落ちてくるようでした。恐怖と美しさが入り混じつて、怯える胸に焼き付いてしまいました。翌日、ほら穴から出てきて市内に入つた時、逃げ遅れた人の多くの焼死体が転がっていました。戦いに敗れ終戦をむかえる、たつた十五日前の出来ことです。この後、広島、長崎に原子爆弾が続けて落されました。こんなに大きな犠牲を払う前に、なぜもっと早く白旗を挙げなかつたのでしょうか。一億層玉碎と、がなぐり立てていた狂気の指導者を以てしては、もともと叶わなかつた夢だつたのでしょう。非情、凄惨、過極な運命にあつてしまつたと思うしかありません。それにしても人的、物的被害は悲惨であり、想像を絶するものでした。

水戸の空襲のこの夜も私たち三人は、父と

二人の兄兄弟がいる水戸の泉町に戻つてしまつたのです。アメリカがこの日に焼夷弾爆撃の空襲をするから市民は避難するようになると云うビラが、一二三日前からまかれていたそうです。私たちは丁度その日に水戸の疎開先の大子から戻つてしまつたのです。その時父から叱られた母は、「どうせ死ぬならみんなが一緒に死んだほうがいい」とつぶやいていたのを私ははつきりと覚えています。温かい母の強い覚悟に、私は思わず涙ぐんでいたことも覚えていいます。

戦争の悲惨さ、非人道的行為は云うべくもありません。日本は、戦後の素晴らしい経済発展を経て、世界中で一番自由で平和な生活のできる国になりました。人間、下を見たらきりがありませんが、どの時代どの場所でも不平、不満が絶えないのが浅はかな人間の世の中です。しかし榮枯盛衰は世の常で、今日本の日本を堅持して、お互いが助け合いの気持

ちで臨んでいくことが最良の道ではないでしょうか。物凄い殺し合いの経験を積んでようやく勝ち取つたこの自由と繁栄を、生きている間とは言わず、この先人類が、日本を手本としてまねて行つてもらうと、大げさではなく、人類が喜びあう人間社会が構築されいくと思っています。第二次世界大戦は国家の詐欺的、欺瞞的行為であつて、誰にも利するところもなく、国民を牛、馬のごとく殺傷した犯罪以外のなにものでもありません。時代錯誤も甚だしい限りですが、副総理が最近、称賛に近い言葉を使つたナチスの蛮行と変わりがありません。

考えてみると、歴史上、何億と云う人々が理由なく殺されていきました。理由なく自由をはく奪されていきました。そんな残虐行為など糞くらえで、下手な理屈をつけて犠牲者を弔つたりすると、如何にも正義ずらする輩などが多く、偽善的行為もいい加減にしろと

言いたいのです。そういう輩に限つて、戦争の被害も受けず、苦労もなく、呑気に生きてきた、否、悪さの影で儲けてきたチンコロに過ぎません。終戦のこの時期を選んで拝むのへちまもありません。本当の眞実を問うならば、形ではなく常に手を合わせる姿勢が必要です。身内を戦争で亡くした友人がいます。八月十五日に戦死したわけではありません。彼は、学生時代から靖国神社に英靈として祀られた身内を、折に参拝して鎮魂の祈りをささげてきています。私の父も、多くの従業員を戦地に送り出し戦場で露と消えた店員を身を切る思いで胸に抱いておりました。そのことを思い出しながら、私は痛恨の思いで英靈の安らかな眠りを祈つて遠くから手を合わせています。その心情たるや實に切ないものがあります。

ですから、八月十五日は名称こそ終戦でも、敗戦でもいい、兎に角、戦争が済んで、殺し

合いをしなくて済んだことを思う時、國家奉仕の、滅私奉公の名のもとに出てしまった多くの犠牲者を、先ずもつて氣の毒に思うのです。この八月十五日は、意味深くいろいろの思ひが各人各様に思い起こされる日であります。八月十五日は何の日ですかと云う質問に半数近い人たちが分からぬといつて答えています。何とか女性大臣がガタガタ言わながら靖国神社に参拝したとかなんとか云つておりますが、そんなことはどうでもいいのです。するのであれば人に気づかれないのであります。するのを云ふのが人としての靈であり、まことの礼と云うものであります。大臣になつたらやるというのであれば、あまりにも見世物的で感じのいいものではありません。これ見よやしにするにも、宣伝がましく振る舞うことも、俗人のいやらしい姿を見るようで鎮魂とは程遠いもので品がありません。

指導者の安倍さんのとつた行動は、静かに

犠牲者の靈を奉る姿勢として立派なものであります。ましてや八月十五日に行事を以て隣国諸国が反日感情をあおりたて、戦場のような状況を作り出すような結果を招いては、何をかいわんやであります。百何名かの国會議員団が仰々しく、この日大挙して参拝しました。大戦で犠牲になつた人たちに對しお悔みと鎮魂の情を抱くこと自体、国民として当たり前であり、敬うべきことであります。では、この日に限らず、彼らは普段の日に静かに英靈を参拝できないもんでしょうか。参拝、参詣はデモンストレーションではありません。ましてやプロパガンダではありません。私は九段前を通るときは、必ず礼拝して、亡き犠牲者を弔つてきます。会社で働いていた沢山の店員を、番頭を初めたつた赤紙一枚の召集令状で戦場に送り出され、その後の悲報に明け暮れていた父の後ろ姿を思い出すにつけ、今以つて私は体を切

り刻まれるような痛切な気持ちを抱くのであります。毎年八月十五日の日を迎えると、戦争のそうした苦労の中にあつても、十字架を背負いながらも、身近かには、体験的には、戦時中を苦労して飲まず食わずの時代を過ごし、私たちを大きく育てくれた父と、母を思い出しては尚あらためて、静かに感謝と鎮魂の祈りをささげています。八月十五日

山並みの影より突如グラマンの見えて機銃掃射あびせ來
敗戦の焼土に母と弟とあらひとがみの声を聞くかな
グラマンの森の影より現れて手を振るわれに撃たで去りゆく

法人税の税率軽減

いろいろと考えられることですが、法人税の税率を下げるか下げないかと云う論議が喧しくなつてきましたが、この税率も国家に組みする一種の既得権であります。税率を有利に保ち続ければ、その分国家の税収が維持され、潤沢にあれば国のために豊富に使つて国家権力の維持につながつてきますが、片や税の支払い義務を負わされている民間企業にとつては、それだけ企業経営のコスト要因が増してくるので、企業の発展のためには少ないとおもつたことはありません。いわば、國家と民間企業は相互依存関係にありながら、一方で利害対立する関係にあるということができます。場合によつては利益分岐点に立つて、双方のつばぜり合いがあつて、結果、

税率は両社の綱引きによつておのずから均衡点に達することになります。税率は流動的なものであつて、その時の経済情勢や、国家財政の状況次第で適正に決められてしかるべきもので、決定過程は力関係によつて決められるといつても過言ではありません。体制派と、反体制派との勢力の力関係によつて暗黙のうちに決められることが正しいというべきであります。専制独裁政治の体制下では、これが一方的に決められて、民衆への過極な苛斂誅求となつてくる場合もありますが、民主主義の国家体制下ではこれが衆議を以て決められていくことになります。

日本の現状は、一千兆円を超すに至つた国家の借金を抱えたまま、これをいかに返済していくたらよいかが焦眉の点であります。もとより国民への税金を課す以外に解決の手立てはありません。昔なら未開地の国を侵略して支配し、財と評価されるものを収奪する

経済的略奪行為、つまり他人の財産を不當に手に入れる、即ち泥棒であります。しかしそんなことはできるはずがありません。自らまいた借金は、自ら解消しなければならず、国家においても同じことで、それを放置すれば

信用を落し、反つて国家存立の有無を問われ、ひいては民間経済の荒廃を招き、私たちの生活も貧乏を強いられることにもなります。これを未然に防がねばなりません。目下は税金によつて收支を量つていくしかなく、経済の状況を見てそのタイミングと効果を狙つているところです。

消費税増税、それを相殺する効果を狙つて法人税他の軽減措置が論議されています。とりわけ消費税については最終的に決定するのは安倍さんで、今後の経済情勢を見ながら慎重に対処することになっています。ここまで来た国民的な感情としては、値上げやむなしと云うコンセンサスが国民の中にかなり

浸透してきている感じがしています。これは安倍さんの政治家としての有能さを示している一つで、政治的誘導を巧みに行つてきたと云えます。可能性としては消費税値上げは有利な展開となつてきました。

景気回復とデフレ脱却は、消費税をあげたとしても影響するところは軽微と判断されます。加えて経済成長路線を向上させ、企業の収益を向上させるには、企業活動の活性化が必要であります。こうした観点からすれば法人税の税率を下げることによつて景気回復を促し、税収を挙げていくという手法もどつていいのではないかでしょうか。企業業績を上げることによつて雇用情勢は改善され、賃金を挙げて有効需要、購買力を挙げて、巡つて企業の設備投資の意欲を挙げていくことができれば、成長路線に弾みがついていくこととでしよう。企業の競争力を強くするために、ベンチャー企業の育成を図るために、据

野を広く持つ大手企業の税負担を軽減するため、法人税の軽減を図ることは勇気がいりますが、その決断が今求められています。

中小企業の育成は、日本経済の至上命令です。このことは経済の民主化と根本的に整合するもので、中小企業の技術力は、その特殊性を以て大企業を支えていくものでもあります。一面、繊細的伝統的技工を有するもので、大企業の先端を担うものが沢山あります。その数は四百二十万社余に及んでおります。これに対し大企業の数はわずか1万社と云われています。0・2パーセントとしかありませんが、利益では70%のシェアを占め、納税額では約50パーセントを占めていることが財務省の統計で分かつております。この大企業の税負担を軽くすることは、直ちに国の税収に響いてきますが、逆に景気回復を促す結果、税収の増大に結びつくものでもの

です。大企業からの税の徴収の方が、中小企業からの徴収よりも効率的であることは論を俟ちません。

即ち四百二十万社から徴収するよりも、50パーセントの担税能力を持つ一万社の大企業から徴収したほうが、正確かつ、迅速であることは自明です。しかも従業員数は30パーセントを越えて、いる数字が発表されています。法人税の軽減は即効性があり、且つ企業の活性化に結びついて、安倍政権のアベノミクスの第三の矢を放つには強力な武器になります。アベノミクスの正念場を迎えている今日、副総理や、経産大臣よりも実際に経済に参加している現役諸君の話を聞いた方が、現実的であり、実践的であり、実効的であることは明白で、責任の所在もはつきりしていいのではないでしようか。

八月二十一日

〔時局論壇〕

『原子炉減少』への始まり
原発再稼働への焦点

一橋大学教授

橋川 武郎



しかし、事態はそれほど単純ではない。そもそも自民党は今回の参院選で、原発政策について中長期的な見通しを明言しない方針をとった。原発に対する国民世論は厳しいと読んだうえで、原発政策を争点から外したほうが、勝利を確実なものにできると判断したからだ。選挙前にその内容を明言しなかつた以上、たとえ選挙に大勝したからといって、自民党の原発政策が支持されたことにはならない。

* * *

一方で、原発のある程度の再稼働は不可避

参院選での自民党圧勝を受けて、運転停止中の原子力発電所が雪崩をうつて再稼働するのではないかという見方がある。今年7月に原子力規制委員会が決めた新しい規制基準をクリアした原発については、迅速に再稼働させるというのが、参院選にのぞむ自民党的な政策だったからだ。

であることも事実である。今年4月、電力需給検証小委員会の報告書が明らかにしたように、原発停止による火力発電用燃料費の増加額は年間3兆8000億円にのぼる。赤ち

やんまで含めた国民の一人ひとりが、毎年約3万円を追加支出していることになる。去年から今年にかけて電力会社6社が電気料金の値上げを実施ないし申請したが、それらは原発の再稼働が前提であり、原発の運転停止が長期化した場合には、再度の料金値上げが取り沙汰されることになるかもしれない。「原発のある程度の再稼働は不可避である」と述べたのは、このような状況を考慮に入れたからである。

それでは、原発はどの程度再稼働するのだろうか。この点に関しては①今年7月に原子力規制委がフィルター付きベントの設置を含む、厳しい内容の規制基準を設定したこと②昨年6月の原子炉等規制法の改正で、原則

として運転開始後40年を経た原子力発電所を廃止することが決まったこと、という2つの新しい規制が重要な意味をもつ。

原発の再稼働は①の新しい規制基準のクリアが大前提となる。フィルター付きベントの事前設置が義務づけられた沸騰水型原子炉(26基)の再稼働は時間がかかる。当面、再稼働が図れるのは、新基準でフィルター付きベント設置に猶予期間が設けられた加圧水型原子炉(24基)に限定される。現実に、7月中に再稼働を申請したのは、稼働中の関西電力・大飯原発3・4号機を含め12基であつたが、いずれも加圧水型であつた。注目すべき点は、7月時点での加圧水型24基に再稼働申請のチャンスがあつたにもかかわらず、12基は申請しなかつたことである。新基準をクリアするためには、フィルター付きベントの設置だけでなく、膨大な金額の設備投資が必要になる。一方、②の「40

「年廃炉基準」が厳格に運用された場合には、多額の追加投資をした原発が、新基準をクリアしていくたん再稼働したとしても、すぐに運転を止めなければならなくなるかもしれません。12基の加圧水型原子炉が7月時点で申請しなかつた事実は、電力会社がこうした事情をふまえ「古い原発」の再稼働を断念し始めていることを示唆している。

「40年廃炉基準」を厳格に運用した場合には、2030年末の時点では、現存する50基のうち表の左側の原発設備が廃炉となる。残るのは、表右側の18基だけである。この18基に、建設工事を再開した中国電力・島根原発3号機とJパワー・大間原発が加わったとしても、2030年の原子力依存度は、2010年実績の26%から、15%程度まで低下することになる（昨年の資源エネルギー庁試算）。

今後、ある程度の原発が再稼働することに

なっても、それは、既存の50基すべての再稼働では決してなく、沸騰水型原子炉も含めて当面30基程度の原発の運転再開が問題となる「減り始める」再稼働であることを、きちんと認識しなければならない。

「40年廃炉基準」適用時の2030年末時点の原発運転状況				
会社	最新	2030年の原発		
		最大出力 (GW)	新規	既存
東邦	泊・1	579	泊・2,3	1491
東邦	女川・1	524	東通・1 女川・2,3	1100 1650
東京	福島第一・5,6 福島第二・1~4 柏崎刈羽・1,2,5	1884 4400 3300	柏崎刈羽・ 3,4,6,7	4912
中部	浜岡・3	1100	浜岡・4,5	2404
北陸			志賀・1,2	1746
関西	美浜・1~3 大飯・1,2 高浜・1~4	1666 2350 3392	大飯・3,4	2360
中国	島根・1,2	1280		
四国	伊方・1,2	1132	伊方・3	890
九州	玄海・1,2 川内・1,2	1118 1780	玄海・3,4	2360
日本	東海第二 敦賀・1,2	1100 1517		
合計	32基	27122	18基	18913

(出所)電気事業連合会編『電気事業便覧2010年版』(2010年)にもとづき筆者作成。最大出力は2010年3月末時点での数値

電力システム改革については、電気事業法の改正が参院選後の臨時国会に先送りされたものの、3段階で遂行される。第1段階では、広域系統運用機関を設立し、新しい規制組織も動き出す。第2段階では、電力小売りを全面自由化し、一般家庭など小口需要家も電力会社を自由に選択できるようになる。そして18～20年をめどとする第3段階で送配電部門の法的分離を行う。これに合わせて、電気料金規制は撤廃される。

ただし、現実には電力システム改革が、この工程表とは異なる経路をたどって進行する可能性がある。そのきっかけとなるのは、東京電力の真の再生プランの実行である。

ここで「真の再生プラン」という言葉を使るのは、昨年5月に認定された「総合特別事業計画」では東電の再生は達成できない、と考えるからである。それは「総合特別事業計画」の年平均リストラ効果が3365億円

であるのに対して、原発停止による燃料費の増加が年間1兆円に達するという事実、つまり両者のあいだには年間6600億円余のギャップあるという事実に、端的な形で示されている。しかも、福島第一原発1～4号機の廃炉費用や放射能汚染地域の除染費用も必要となる。現状のままでは、東電が毎年毎年、電気料金を値上げする事態さえ生じかない。

現状を開拓するためには、何らかの形で柏崎刈羽原発の運転を再開し、廃炉費用や除染乗用を国が中心となつて負担するしかないであろう。しかし、柏崎刈羽原発の再稼働や廃炉・除染費用の国庫負担に対しても、世論の強い反発が予想される。世論の反発を和らげるためには、当事者である東電がもう一段踏み込んだリストラ、多くの国民が納得するリストラを実施する以外に方法はない。

そのようなリストラとは、いかなるもので

あるうか。それは、東電がピーク調整用の揚水式水力発電所等を除いて、基本的にはすべての発電設備を売却するというものである。

その場合、発電設備の運転にかかるる人員は売却先へ移籍することになり、東電の従業員数は大幅に減少し、リストラ効果は拡大する。東電が発電設備売却によって得た収入は、賠償・廃炉・除染費用に充当する。また、柏崎刈羽原発も売却の対象となり、事業主体の変更で同原発の再稼働もしやすくなる。

* * *

筆者はこのようないストラで東電の存続が可能だと考える。発電設備売却後の東電は、東京の地下を東西南北に走る高压送電線とそれに連なる配電網を經營の基盤に生き残る。世界有数の需要密集地域で営業するという特徴を生かせば、存続は可能であろう。

ここで問題となるのは、東電が売却する発電設備を購入するのは誰か、である。購入候

補の筆頭にあがるのは、中部電力だろう。その他、Jパワーや、ガス会社、石油元売り大手などの名をあげることができる。

中部電が東電の発電施設を購入すれば、すでに計画中の東京都への電力供給にとどまらず、東日本の50ヘル地域で広範に電力販売ができるようになる。それは、電力会社間競争の本格的な開始を意味し、電力全面自由化へ道を開く。その場合、東電については発送電分離になるが、他の電力会社は必ずしも発送電分離になるわけではない。「電力システム改革が、この工程表とは異なる経路をたどつて進行する可能性がある」と述べた理由は、ここにある。東大経済学博士。

専門は日本経営史・エネルギー産業論

川、武郎

平成二十五年七月十七日

於・八重洲富士屋ホテル

経済の精神

一橋大学学長
山内進



○司会 只今から、7月の公益社団法人昭和
経済会の講演会を開会致します。

本日は、一橋大学の学長での山内進先生に、
御多忙のところお越しいただきました。本当に
ありがとうございます。大変貴重な機会と
いうふうに私どもも考えております。

山内先生は、一橋大学の法学部を1972
年に御卒業されて以来、学会のほうで多大な
貢献をなさっております。2010年に一橋
大学の学長になられまして、それ以前も一橋
大学の理事及び副学長とを兼任、要職につか
れておりまして一貫して日本の法学研究、学
術をリードされてきました。2005年から
は法文化学会の理事長も兼職され、また、2004年からは21世紀COEプログラム
ということで、ヨーロッパの革新的研究拠点
のリーダーに就任なされているということ
で、グローバルな活躍をされております。御
存じの方が多くいると思いますが、「北の十

字軍」ということでサントリー学術賞も受賞されています。非常に幅広く御活躍の先生のご講演を楽しみにしておりますので、有意義な2時間をお過ごしいただければなと思います。

まずは、開会の挨拶を、当会理事長の佐々木誠吾よりお願いしたいと思います。

○佐々木氏 皆さん、こんばんは。雨の中、ようこそお出かけいただきましてありがとうございます。また、梅雨明け、連日の灼熱の猛暑続きでございましたが、二二二、三日救われたような気温のちよつとした低下でしのぎやすくなつております。きょうは、何かこの席のために神様が用意してくださったものとしのぎやすさに感謝いたしております。

今、司会者から紹介かたがた先生の功紋につきまして、るるお話をありました。先生からきょうう資料としていただいたパンフレットの冒頭に「法の精神」という文字を見つけました。18世紀ころに出た著名な政治学者、法学者であり、我々が学生時代、よく学んだ人の考え方でございます。そこで「法の精神」ということはよく聞きなれた言葉ですが、先生から演題につきまして「経済の精神」ということを申されましたので、私は一瞬どきつとしたのであります。「経済の精神」ということを今まで私は耳にしたことがないんですね。そこで、「二二二の友人に聞いたところ、やはり経済の精神という言東を聞いたのは初めてだ」という異口同音の事柄でした。そこで、私はまことに感銘深く、この「精神」という言葉の使い方について感服しているところなのですが、きょうは先生にぜひ「経済の精神」こちらにモンテスキューの「法の精神」という言葉がございますが、アダム・スマス以来、経済のことにつきましては国富論、それから下ってきてマルクスの経済理論、そ

これから近時に至つてはケインズやシュンペターのゆうな何か立派な方々が出てきております。しかし、「経済の精神」ということで、基本的な根本原則や、倫理とでもいいますか、ルールとでもいいますか、こういったことについてお話をされるというのは、私初めてなもんですから、きょうは楽しみに先生のお話を拝聴したいと、このように希望に燃えて伺つてお話をされるわけですが、先生、どうぞ、よろしくお講話を願いいたします。

○山内氏 初めまして、山内と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

最初に理事長からお話しいただきまして、前にいろいろ講演された方などの名前を見まして、これはどうも大変なところで、どうしようかと思ったのですが、どうしようかと思つているうちに、やることになつてしましました。それで、私のほうもやるということ

で決めたのですが、何を話そうかと思つてみると、佐々木理事長のほうからお話をありましたように、むしろ演題を「日本経済の将来」といったような話はどうだろうかというご提案を聞きまして、これはとてもではないけど私はできない。私は、今ご紹介がありましたように、法律の専門でありますし、さらに言えばリーガル・ヒストリー、法制史といいますが、法の歴史という学問研究をやっております。したがいまして、とてもではないけど、それは無理だと思ったのです。ただ、無理ではあるけれども、せつかくの御要望なので、何か少しほそに近い話はできないだろかということで、考えたのが、この「経済の精神」という題であります。私なりに考えるところのこととを少しお話をさせていただければと思います。当然お話をする時間を大体1時間ぐらいでいいのかなと、私は見当をつけておりますので、思いのまゝを、お話し

しますのでよろしくお願ひ致します。

日本経済との関係というのは当然、我々日本人としていろいろ問題関心があるところではありますけれども、私の専門はヨーロッパなので特に法制史というものをやつておられますので、その関連のほうから少し入つていこうと考えております。

それともう一つの話の筋としまして、経済の精神といつてもいろいろ言つてきて、こういう形でこれが経済の精神ですという思議だなと思ったのは何で出てこないのかなど。多分、経済思想ということが出てくるようになかなかうまくいかないだらうと考えております。私のエリアでやつてていることとの関係を中心にお話ししながら、多少はしょるような形になつてしまいますが、細かい部分はさておいて大体こんなところかといふような話にならうかと思ひますので、その点はちょっと御理解いただければと思ひます。

今理事長が言われましたように、私もテー

マを「経済の精神」と題としたことは確かに悪くないと思いました。しかし、念のためにグーグルを引きまして、どういうのがあるだろうかと思つたら確かに経済の精神と引いてもない。経済の精神とは何ぞや、というのは出てこないです。これは不思議だなと思うと同時に、困つたなと思つたのですが、不思議だなと思つたのは何で出てこないのかなど。多分、絏済思想ということが出てくると思うのですが、絏済の精神というものは出でこないんですね。それは、ある意味で不思議といえば不思議なことなのですが、しかし私としてはそれでは、どこにも書いてないのでというわけにもいきませんので、お話をしたいきたいと思います。

取つかかりに、今御説明ありましたように、モンテスキューが「法の精神」という大変有名な本を書いています。私が絏済の精神というのを思いついたのも、「法の精神」という

のが頭の中にどこかに入っていたので、ぱつと出てきたのだと思います。それで、「法の精神」を少しひもといてみながら、何か話はできないかということを考えました。私の頭の中になんとあつた言葉があります。それは何かといいますと、今皆さんのお手元に配付しました、その「法の精神」の、第4部第20編の第2章といふところに書いてある「商業の精神」についてという項目があります。彼がその「商業の精神」についてといふことを書いていますので、このあたりを手がかりにして少し話をしてみようかといふうに考えました。

モンテスキューはその箇所に書いてあるとおり「商業の自然の効果は平和へと向かわることである」ということを最初に書いております。「一緒に商売をする2つの国民が互いに相より相助けるようになる。一方が買うことに利益を持てば、他方は得ることに利

益を持つ。そして、全ての結合は相互の必要に基づいている。だから、平和につながるのだ」と。これはなかなかいい言美だと思います。商業は平和と結びつくということになります。

ちなみに、一橋大学のマークは、マーキュリーです。マーキュリーといふのは商業の神ということになつております。そのマーキュリーのマークといふのはカドウケクスという杖のようなものがりますが、それに蛇が2匹ついています。それを図案化したのがマークユリーですが、その蛇が2匹くつついでいるというのは、離れている2匹の蛇が、実はこれは平和の象徴であると言われて、けんかしている蛇2匹を、このカドウケウスを以つてメリクリクスが引き離したということが言われております。厳密に言うと、メリクリクスといふのはギリシャ神話に出てくる神ですけれども、それで普通は商業の神と言

われていますが、商業の神であると同時に、平和を象徴するといふことが言わされております。そういう意味において、確かに商業は平和と結びついているといふことが言えるのかなと思います。

しかしながら、一方でモンテスキューはさらには続けて、商業の精神は確かにそういうことで諸国民を結びつけるけれども、同じように一人一人を結びつけるわけではないと言っています。自分の見るところでは、商業の精神の影響しか受けていない国では、あらゆる人間行動や、あらゆる道徳的徳が取引の対象となるとされています。つまりどんなことでも金銭と引きかえで考えられるということです。利益との関係で考えられるということです。注としてモンテスキューはわざわざオランダという国は商業の精神の影響しか受けてない国として上げているということです、オランダの人は怒るのではないかと思いま

ますが、そういうことが書かれています。当時、オランダがどういう考え方、どういうふうに見られていたかというのがよくわかる話だと思いますが、ちょっとこれには問題があるということが言われています。

もう一つ、著書の指定する3番目の段落を見ますと、このところに就いて私が最初にお話をしたいことと関連しますが、一方で商業の精神というのは、人間の中にある正義といふものについてのある感情をここで生み出しているということです。この感情は、一方では略奪と対立し、他方ではあの道徳的な徳、すなわち自分の利益を必ずしも必要としないようさせ、他人の利益を図つて自分の利益を顧慮しないようにさせる、あの徳と対立することが書かれています。これで、商業の精神は平和を求めるのだけれども、そのことに関連して略奪という感情と、どう対立かが問題になります。これは当然平和というも

のを重んずるからなのです。他方ではまた、自分のことを考えず人のことを考える、そういう徳とも対立ことになります。

おもしろいのは、「略奪」という言葉がここに突然出てくるということであります。この略奪という言葉が突然出てくるということはどうしてなにかということを、これからお話ししようと思つています。4段落目に書いていることはおもしろいので、ちょっと触れさせて見てみます。商業をなくしてしまふと、アリストテレスが獲得の仕方の一つとして教えた略奪が出てきます。それは、ある種の道徳的な考え方と対立しないということになります。ある種の道徳的徳とは対立しない略奪とは一体どういうものでしようか。略奪の精神ということになりますが、例えば客人の厚遇というのは商業国では極めてまれだが、略奪国民の間では感心するほどに見出されることであります。客人厚遇はホスピタリ

タス、ホスピタリティーのことと言つております。昔はよそから人が来たらとにかくおもてなしをする、徹底的におもてなしをすることです。これは、左の次の段落にゲルマン人がそうだつたと書いていますが、タキトクスが言つているというんです。お客様が来たときにかく自分のあるところのものを全部出して、お酒を飲んで、食べ物を食べて、どんちゃん騒ぎをするというのです。それで、自分のものの食べ物がなくなると、今度はそれを客と一緒に隣の家に行つて、隣かどうかは限りませんが、また一緒にどんちゃん騒ぎをすると。これが、礼儀というものなんだというのがタキトクスに書かれております。

同じようなことが、これは異人歓待の論理といつていまますが、どつか全くよその国の、よその地方の人々が来て、泊めてくれと言つたら泊めなければ、食事も与えなければいけない、そういうのが礼儀としてあつたと言われ

ております。このような精神が、しかしながら一生懸命それをやるのは、むしろ略奪をする人たちだということなのです。商業をする人々はそういうことをしないと言つているわけです。この辺のところが何となく謎めいた感じがするのですが、略奪をするような人たちのほうが盛大に振る舞うというのです。商業の民は、見知らぬ人が来てもそんな盛んなことはしないといふのです。こういうことがあるということを、このモンテスキューは「法の精神」で述べてゐるわけです。このあたりのところを、少し出発点にしながらお話をしてもよいかなと私は思つております。

その関係の中で今見ていきますと、要するに商業の精神と対立するものとして、彼が略奪ということを述べたといふことが興味深いことなんですが、これは実はモンテスキューが商業とか、あるいは経済活動というものが考えるときに、略奪というものが対比的に考えられるに及んで、同時に、これは、歴史がすごく得意な彼が、歴史的観点から見て彼の時代のいろいろな経済活動と対比的に考えられるものもあるという意味で、この略奪というものを上げたと思われます。

というのは、非常に原理的な言い方をしますと、中世においては、あるいはもうちょっと前の段階ではもつとはつきりしていませんが、略奪といふのは一種の経済活動であつたと言うことができます。略奪が経済活動と云うのは変だらうと私たちは思うのです。当時はそういうものであつたのです。そういう時代があつて、そういう時代を踏まえて次の時代が出てくるということがある、ということが認識できます。ただし、この場合の略奪というものはちょっと注意しなければいけません。単に隣のうちに行つて物をとつてくると

いう話ではなくて、一種の戦争行為を行つて、その戦争行為によつて勝つことによつて、相手から物を奪うということです。略奪するものが財産、不動産である場合は当然ありますけれど、人を奪うということも当然です。もちろん殺すことも戦争ですからありますけれども、人を奪つてこれを売り買ひするというのは当然のように行われていたわけです。中世の騎士の時代には、騎士同士が戦つて勝つたほうはその騎士を捕らえて、自分の手元において、そして身の代金を取つて返すということをざく普通に行つています。かなりいいお金がもらえるので、負けた方は身の代金を渡します。これは、イスラムの人たちとの間でも頻繁に行われたことがあります。

イスラム教徒とキリスト教徒は十字軍などで、常に戦争をしていますから、その戦争をしたときに、当然、多数の死者は出ますが、身分の高い人、金のありそうな人は殺さない

で捕まえて、捕虜にしています。いろいろ交渉して、身の代金を取るというのがむしろ、普通に行われていました。典型的なのは、リチャード獅子王という人です。イギリスの議会の前へ行くと、馬に乗つた立派な騎士の王様が乗つかっています。リチャード獅子王、獅子心王ともいって、十字軍に行つた有名な王様です。ちょうどロビン・フッドの時代で、ロビン・フッドの映画に出てくる立派な王様というのは、そのリチャード獅子心王で、ロビン・フッドと対立する悪い王様が、その弟のジョン王であります。ジョンというのが、マグナカルタを書いた人物であり、そういう中で出てくるリチャード獅子心王というイギリス人の英雄的な人物がいますが、この人は実は十字軍から帰つてくるときに、オーストリアで捕まつてしまします。なぜ捕まつたかというと、違う国の王様だからなのです。十字軍に行つたときにはけんかして、別れてい

て、それを恨みに思つて捕まつたのです。彼を解放するために多額の身の代金を取つたという話が残つています。すごいお金であつたそうです。すごいお金と言えば、要するにウイーンの市街を城を取り囲んで立派な街がありますが、昔ですから、それをつくるお金が身代金できただといふぐらいすごいお金だつたと言われています。このときの話をテーマにしてつくられたのが、「アイヴァンホー」という小説です。「アイヴァンホー」というのは「黒騎士」という映画にもなっています。これには、エリザベス・ティラーが出でてくる映画で、1949年ぐらいですかね、大分前の古い映画で、ごらんになつた方もいるのではないかと思います。これは、大変おもしろい映画ですが、そのアイヴァンホーというのはイギリスの騎士です。リチャード王が捕まつて、捕らわれの身としているので、その身の代金を払うということを画策して、

ユダヤ人からそのお金�を借りようとするのです。そのときに弟が王様のかわりをしていましたので、それを妨げようとすると、そのユダヤ人の娘がレベッカといいまして、その娘さんが実はそのアイヴァンホーに恋をするのです。そういうことも映画にはあつてお金を出してもらうというストーリーなのです。一方でアイヴァンホーはサクソン人のお姫様と仲がよくて、その人と将来的に結びつくことになるのです。そういうお姫様も登場し、そういう環境の中で決闘をしたり、何だりといふいろいろなことが行われます。最終的にはそれでリチャード王がその工面されたお金で解放されて帰つてきて、国王ジョンに対して、おまえ何をやつておるんだという話になつておしまいという映画です。口で言つてもおもしろくないのですが、映画で見たら大変おもしろいのですが、私はちゃんとDVDで持つてあるので、お見せしたいくらいです。

それを見ると私の話は終わってしまうので、本当はそのほうがいいんじゃないかという気がしながら、それじゃ来たかいがないので、こういう話もありますといふことをお話ししました。身代金の要求は割と一般的に行われていたのです。マグナカルタにもちゃんと出てきます。王様の言うことを聞かなければならぬというときに、身の代金を払うことなど条項がちゃんとあるのです。こんなことはしょっちゅう、やつているのです。ですから、偉い人は余り、殺されないようにでけています。下つ端は捕まえてもお金にならないので、これは殺してしまって構いません。中世の戦争は結構乱暴なので、捕まえたってお金にならない場合は殺すか、もう戦場に出てこれないよういかたわにして返すというようなことがごく一般的に行われたと言われています。

そういうようなことで、かなり乱暴なこと

もいろいろ行われていたわけですが、今言つたように、略奪には、全ての商品、物に及んでいます。みんなが持つているもの、あるいは食べ物も含まれます。これを奪うというケースは、貴金属の他に人を奪う場合もあるということです。若い女性は、全て売り買いの対象になつたのです。女性は基本的に殺さないということになつていて、男は残すと相手方の戦力になりますから殺してしまいます。騎士でも捕まえて返す場合には、あなたを相手に今後は戦いませんという誓約書をとつたりして返すというようなことは、中世ヨーロッパの騎士の間ではしていたわけです。騎士のそういう行為というのは、伝統的にゲルマンの時代からの伝統でした。

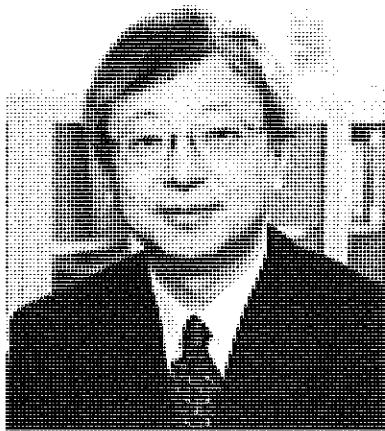
続く

〔時局論壇〕

消費税増税の論点
金利暴騰リスク、より深刻

東京大学教授

伊藤 元重



予定通り来年に消費税率を上げるのか、それとも引き上げ幅を小幅で刻む（あるいは延期する）のかで、それぞれマクロ経済的なりスクがあることは明らかだ。予定通り増税することで懸念されるのは景気が失速することだ。せつかくデフレ脱却の道が見えてきたのに、それを潰しては取り返しがつかない。増税に慎重な人たちはそう主張する。

これに対し引き上げを予定通り進めていくべきだという人たちの中には、増税スケジュールを変えれば、国債金利の暴騰（国債価格の暴落）が起きることを心配する人が多い。ただでさえ膨大な公的債務を抱えている日本が、ここで財政再建の先送り姿勢を示したら、日本の財政への信任がさらに揺らぐことになりかねないという。

米スタンダード・アンド・プアーズ（S&P）やムーディーズのような格付け機関は、増税が先送りされば、日本の国債のリスク

評価を再検討するだろう。すぐに格付け引き下げにつながるかどうかは分からぬが、日本の国債の格付けがもう一段下げられれば、海外の金融機関は日本の国債をリスク資産として再評価しなければならなくなる。ようするに日本の国債を保有しにくくなるのだ。

消費税の増税を急いで、デフレ脱却の芽を潰すというリスクに直面するのか、それとも増税の幅あるいは予定を変更して国債金利暴騰というリスクに直面するのか。どちらのリスクの方が深刻なのかという比較の問題となる。

* * *

このリスクの比較という点に、重要なポイントがある。リスクと一言でいうが、リスクの「質」にまで踏み込んだ議論が必要である。デフレ脱却の芽を潰すというリスクは、あらかじめその可能性を認識していれば対応できるリスクである。これに対して、国債の金

利暴騰ということになると、実際にそうしたことなどが起これば取り返しのつかないことになる。政府にも日銀にも国債の暴落を止めることは簡単なことではないのだ。

膨大な公的債務の存在は深刻な問題である。それにもかかわらず国債金利は非常に低い水準で推移している。これは、市場が当面の財政危機のリスクを非常に低くみていているからだ。かりに相当な確率で国債金利の暴騰（価格暴落）が起きるとみているなら、誰も国債を持とうとは考えないだろう。すでに金利は相当に高くなっているはずである。

そうなつていいのは、財政危機が起ころる確率は当面、非常に低いと市場がみているということだ。しかし、この「低い」確率というのがくせ者だ。確率が「ゼロ」ではないからだ。確率が非常に低いので、その可能性について多くの人が真剣に考えないが、いざそのリスクが顕在化したら大変なことになる。

これをテールリスクと呼ぶ人もいる。世界的なベストセラーとなつたナシーム・ニコラス・タレブ氏の著書「ブラック・スワン」は、この現象の重要性を指摘したものだ。

主要国の国債格付け(自国通貨建て)		
	ムーディーズ	S&P
日本	Aa3	AA-
米国	Aaa	AA+
フランス	Aaa	AA+
ドイツ	Aaa	AAA
英國	Aa1	AAA
中國	Aa3	AA-
韓国	Aa3	AA-
イタリア	Baa2	BBB
スペイン	Baa3	BBB-
ギリシャ	C	B-

國債金利暴騰のリスクがゼロと考える人はいないだろう。公的債務が国内総生産(GDP)比で200%を超える日本の財政の健全性にまったく懸念を持たない人はいないはずだ。日本よりもはるかに低い債務比率で歐州の多くの国が財政危機に陥っている。國債金利暴騰のリスクが、確率的に低いということと、國債金利が非常に低い水準で推移しているということにも、関係があるかもしれない。筆者はバブルの研究についての専門家ではないが、バブル(國債バブル)について一般的に次のような議論ができるのではないかと考えている。

2008年9月のリーマン・ショックがそうだろう。リーマン・ショック以前、バブルが崩壊する可能性を論じた人はいたが、多くのはその可能性が非常に低いと見た。だか

ら、リーマン・ショックの直前まで、株価などは高い水準で推移していた。しかし、リスクが顕在化してしまうと、市場の暴走は誰にも止めることはできなかつた。

株にしろ、為替レートにしろ、その価格が暴落する直前は、むしろ価格は高めに推移す

る傾向がある。だからこそ、高価格が急落するバブルのクラッショ（破裂）が起きる。

これを日本の国債に当てはめて考えてみよう。日本の国債金利の暴騰の確率は、今の段階では非常に低い。しかしそのリスクがないわけではない。国債の価格が暴落（金利暴騰）することに伴う期待損失額は、国債価格下落から発生する損失額に、そのようなことが起きる確率をかけたものとなる。リスク危険回避度がどの程度かにもよるが、一般的に確率が低いかぎり、この額はそれほど大きくなない。かりに国債を持つことの魅力が期待損失額を十分に上回っていれば、金融機関は国債を保有しようとするだろう。

日本の長期金利（長期国債利回り）が低いことは、日本の財政への信認の強さのように解釈されることがあるが、かららずしもそういうばかりいられない。株式のバブルが崩壊するときには、その直前まで本来あるべき

水準より株価は高くなっている。為替レートも同じだ。今の国債市場がバブルであるかどうかについてはいろいろな見方があるだろうが、国債金利暴騰というテールリスクの存在を前提とすれば、国債金利があまりに低くなることは歓迎すべきことではない。国債金利は低いが、日本国債の債務不履行（デフォルト）リスクを反映するクレジット・デフォルト・スワップ（CDS）プレミアムが高いことは気になる。

* * * *

取り返しのつかないリスクということといえば、では、消費税率引き上げによつて景気が失速してデフレ脱却の芽をつむことになるリスクはどうだろうか。その可能性はどの程度あるのか。そして仮にそうした問題が起きたとき、対応は可能なのだろうか。

消費税率の引き上げによつて景気が減速し、デフレ脱却の進捗に影響が出る可能性は

否定できない。足元の景気の強さをどう見るのか、消費税率引き上げの影響の大きさをどう見るのか、エコノミストによつてその評価は違う。今こそ引き上げの絶好のチャンスだと指摘するエコノミストも入れば、引き上げ幅を小刻みにすべきだと主張するエコノミストもいる。

ただ、重要なことは、消費税率の引き上げで景気に大きな影響が出たとしても、それはリカバーできる面が大きいということだ。突然起きた国債の金利暴騰とは違つて、景気への影響にはある程度対応できる。消費税率引き上げの影響を緩和するような財政政策を導入することは可能だろう。その中身が、低所得者対策なのか、投資減税なのか、それとも公共投資なのかは、選択の幅がある。

そして何より重要なことは、デフレ脱却のための中心となる政策は金融政策であるということだ。金融緩和策をさらに踏み込むと

いう方法もあるだろう。そもそも、安倍晋三首相の経済政策「アベノミクス」では金融政策こそデフレ脱却にもつとも有効であるということだったはずだ。消費税率にかかわらず金融政策を柱に脱デフレの政策を進めていくべきである。ここに来て、消費税率の引き上げ延期（あるいは小刻み化）という「財政政策」によつて、金融政策が主役のデフレ対策という基本スタンスから脱することには疑問を感じる。

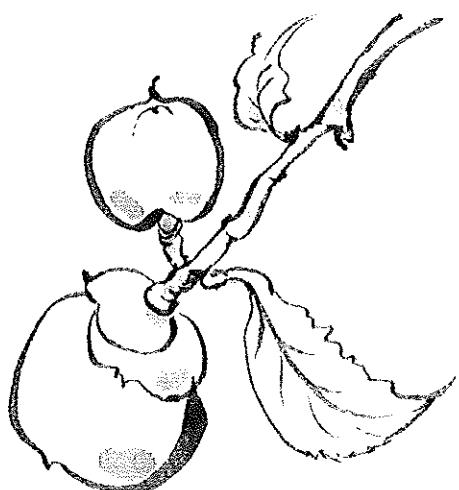
* * *

確率は小さいがもし起きたら取り返しのつかないようなテールリスク。これが消費税率の引き上げ先送りによつて懸念される国債リスクである。確率は小さくないが、その影響の大きさには幅があり、いずれのケースもマクロ経済政策で対応可能なリスクが、消費税率引き上げショックのリスクである。どちらのリスクを避けるべきか、明らかなよう

に思えるのだが。

ロチエスター大博士。専門は国際経済

伊藤 元重



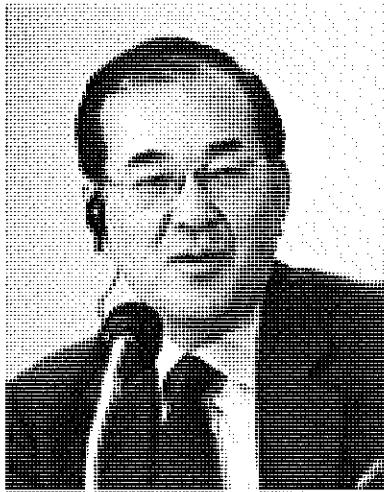
作品 関根常雄

〔時局論壇〕

エジプト政変
真の民主主義不在の闘争

明治大学特任教授

山内 昌之



エジプトで起きた2011年2月のムバラク大統領の失脚と、今年7月のモルシ大統領の退場には大きな共通点がある。国防軍が政治解決を主導し、数百万人の大衆の街頭抗議活動を巧みに利用した点である。二つの事件は、組織された力をもつ軍とムスリム同胞団との権力闘争が今の大統領政治の本筋であり、リベラルから稳健左派にいたる政党と市民の連動は、それを補完する脇筋に甘んじている現状をはしなくも示した。それは、「民主主義者のいない民主主義」の限界ともいえよう。

アラブの春は、民主主義と独裁政治の衝突のように見えながら、ポスト・ムバラクのエジプトでは民主主義の力は成長しなかつた。民主主義は、異なる民意が最大限に一致する点で、妥協や提携を受け入れる政治の在り方でもある。この意味では、エジプトに限らずアラブの社会では、信仰や歴史的伝統の相違

へのこだわりが党派対立に結びつき、その結果、政治と経済を民主主義的な手法とエスプレリ（機知）で運営する作業は困難を極めてきた。

ムスリム同胞団は、国会や大統領の民主的選挙で支持を得だと自負する。しかし、12年の大統領選挙では、51・7%対48・3%の僅差でモルシ候補が保守派のシャフィイク候補をかわしたにすぎない。投票率も1回目46%、決選投票でも52%であった。エジプト人は初めて得た自由選挙の機会にもかかわらず、政治参加への関心は驚くほど低かったのである。それはカイロ中心部のタハリール広場やインターネット空間で繰り広げられた熱狂とは対照的だった。市民は民主化の具体的プロセスに持続的に関与しようとした。

ムバラク失脚からモルシ退場に至る2年半のエジプト政治は、デモクラシーというよ

りは「スクエアクラシー（広場政治）」「ストリートクラシー（街頭政治）」とも呼ぶべきである。政党や個人が自己顯示を競う祝祭のような機会になると、俄然精彩を放ち、活動を発揮した。しかし、リベラルや稳健左派の勢力は、国会選挙や大統領選挙で統一候補を擁立するなどの連携すら拒否した末に、ムスリム同胞団の組織力や動員力に屈したのである。

選挙で勝利を収めたムスリム同胞団は、とりあえず国防軍の協力を得たことで、イスラムと民主主義の政治的共存を図る実験に乗り出すかに見えた。それが失敗したのは、「スペアタイヤ」と渾名されるモルシ大統領のカリスマ性と行政手腕を共に欠く無力ぶりもさることながら、いずれは政権交代もあるという選挙のデモクラシー的性格を同胞団が理解しようとなかつたからだ。

ムスリム同胞団は、ひとたび得た権力の果实を手放さないために、法曹界や行政官僚の人事に露骨に手をつけたばかりでない。トルコのエルドアン首相が国防軍の自律性を削った成功例に励まして、エジプト軍のもつ人事予算権や企業経営権を奪おうとした。あるいは、革命防衛隊の強化によつてイスラム政治体制の永続化を図つたiranのホメイニの成功体験に学んだのかも知れない。

しかし、モルシ氏には、目的達成に時間をかける粘りや忍耐力が欠けていた。国防大臣のシシ将軍は、世俗主義者でな敬虔なムスリムだという理由で任命されたが、彼がモルシ氏に従つたのは、軍の権限や予算に干渉されない限り同胞団と正面から事を構える理由もなかつたからだ。

国防予算は約44億ドルで、国家予算の4%あるいは国内総生産（GDP）の1・8%にほぼ相当する。軍の主要関心は、国内政治に

おける究極の裁定者たる地位を確保し、経済の30%を管理する国防省と軍需省、アラブ工業化機構、国立軍需生産機構に付属する企業を、いかなる政権の干渉からも守る点についた。

1979年にイスラエルと平和条約を締結した後、90万人の軍は縮小し、退役将校の再就職先として企業が必要になつた。さらに、30年間のム巴拉ク時代に軍から退いた将校25万人の人生も保証しなければならなかつた。国防軍の常備兵力は45万人、他の治安部隊は40万3000人もいるが、この数字こそ政府が失業率を下げる受け皿になってきた。この面に無自発なモルシ氏は、独裁的手法でイスラム主義の統治観を軍に押し付けようとした。

悪いことに、法と秩序だけでなく経済も崩壊の寸前だつたこの国の惨状は、軍の権益を直撃する。2012年7月から13年6月

まで予算は288億ドルの赤字を計上した（GDPの11・5%）。外貨交換率は11年1月から13年7月にかけて20%も急降下し、外貨準備高は50%まで下がった。12年の失業率は公には12・7%だが、若い世代ではもつと高いと、アラブ経済に詳しいポール・リプリン博士は指摘する。

13年3月にムーアデイーズは、エジプトの格付けをB3からCaa1に落とした。投資適格級を7段階も下回る水準だ。14年には債務の10%が不履行となり、5年以内に債務の40%が不履行になると見込まれる。

ムスリム同胞団の権力への執着は、11年にムバラク元大統領を倒した反対派の再結集をようやく呼び起した。そこにはリベラル、サラファイ（復古主義者）、コプト（キリスト教徒）が含まれ、軍も加わった。同胞団の失敗は、選挙によるイスラム体制が民主主義を名乗るのに最低必要な次の4

条件を無視した点にある。①人定法の尊重と立法行為を認める②コプトのような宗教的少數派を平等に扱う③女性の自由と平等を保障する④宗教の自由と宗教からの自由と共に認め、思想と表現の自由を容認する——ことだ。同胞団は選挙で政権を掌握しながら、主権在民を重んじる統治ができなかつた。

とはいっても、選挙で半数が投票した大統領を、残りの半数が軍の力を借りて打倒したのだ。リベラルや稳健左派は、同胞団の関係者を逮捕し殺害した軍や内務省治安部隊と共に謀殺したことになる。ムバラクの保釈を招いたリベラルや稳健左派は、11年の革命を反革命の逆コースに戻した点において、デモクラシーを語る資格に疑問符が付けられるだろう。

米英や欧州連合（EU）はモルシ政権の正統性にこだわるが、ロシアは今回の政変を支持する。シリア情勢とは反対のねじれが見られる。久しく超越的な裁定者を自負してきた

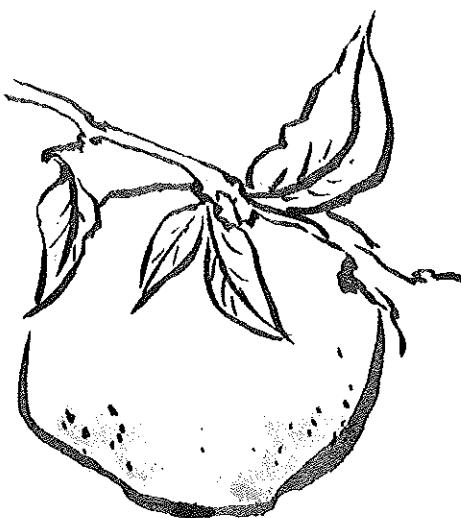
軍は、民主主義者のいない「民主主義」を流血
も辞さず維持しようとしたが、代償は高く
つくに違いない。

カイロ大客員助

教授、ハーバード大客員研究

員、東大教授を歴任。東大名誉教授。現在、
政府のアジア文化交流懇談会座長。

山内一叶



作品 関根常雄



わが回想記（その一）

早稲田大学名誉教授

堀江 忠男

コモン・ルームの良さ

一九六六年の一月始めから三月末まで、私はケンブリッジ大学にいた。英國の大学独特の言葉を使えば、*rent term* の期間である。雪、雨、曇りの日が多く、底冷えする寒さで、最悪の季節だが、精神的には実り豊かな、いま思いだしてもほのぼのと温かさを感じる滞在だった。

私がそういう留学生活を味わうのに大き

く役立つたのが economics building (政経学部とその大学院のあるところの通称) の common room であった。午前一一時からと午後四時からと、一五分ずつ、お茶の時間があ

つて、faculty members はもちろん、私のような外国人の長期滞在者や、特別講義に招かれている人びとなどが、互いに織りあい、話しあうのに絶好の機会だった。

いまは停年退職すでにいないが、当時、世界的に名声を知られていたジョーン・ロビンソン女史に始めて会ったのも、コモン・ルームであった。ケンブリッジに着いて、学部事務所に連絡した翌日、教えられて、朝のコーヒーの時間に、コモン・ルームへ顔を出してみた。やがて、きれいな白髪の上品な老婦人が入ってきた。ロビンソン教授であった。予め手紙を出してあって、ぜひ会う予定の学者だったから、さつそく自己紹介をして、知り合いになった。

その後、女史とは、コモン・ルームばかりでなく、その研究室で、彼女が学生のサークルで講義・指導をしている部屋で……いくたびも会った。女史はイギリス経済学の形成史

のひとコマをみずから担つてきた学究で、その面では、私にとつて「権威」であった。同時に、彼女はマルクス経済学をよく知つていて、その批判者である点でも有名だった。

マルクス経済学体系にかんするかぎり、私のほうが的確な知識をもつてゐることを間もなく知つた。私は、女史の教室における講義を聴講させてもらつていたが、彼女の研究室を訪ねたときには、『資本論』中の問題点について、彼女に説明をした」ともある（その内容について関心のある読者は、堀江『歐米のマルクス主義と民主主義』、学文社、一九六六年、一〇六一～四ページ参照）。彼女は私が進呈した英文論文のお返しと、On Re-Reading Marx というパンフレットをくれた。それには、For a Fellow Bicycle Rider, Joan Robinson と署名してあつた。マルクス批判と同じ道をゆく友に、というほどの意味である。

コモン・ルームは、Kalbor, Sraffa, Goodwin

などのスタッフと知りあつた場所もあり、インドからきていたマルクス・レーニン主義者のsingh という若い研究者に紹介されたのもここであった。彼とは、レーニンの革命理論をめぐつて、意見をたたかせた。

日本の大学には「お茶の時間」という習慣がないから、こんなふうに円滑に機能するコモン・ルーム式のものはできにくい、とは思う。だが、政経学部の講師室など、非常勤講師のカバン置場に使われるだけではもつたいない。教授会メンバーも、外国の大学から来ている研究者も、みんな集まって、お茶を飲んだり、クッキーをつまんだりして、知りあいになり、雑談をし、それがキズナになつて、学問的な刺激が得られ、交流が深まる。そんなスペースができるないものか。学生ラウンジがあるのだから、教授ラウンジもあつてよからう。

戦前に教授となり、いまはもう学園を去つ

ている先輩諸氏の話では、一教授会メンバーが數十人ではなく十数人だった昔は、昼食を同じ部屋で食べた。それがコモン・ルーム的な効果を發揮した。ところが、人数が数倍にふくれ上つて疎遠になり、しかもその一人一人が研究室という「城」に閉じこもるようになつてから、精神的な風通しはぐつと悪くなつたというのだが。

水曜研究会・木曜研究会

昭和三九年の春（？）、『朝日ジャーナル』誌の「大学の庭」という連載記事中の一橋大學紹介を受けたことがある。ちょうど水曜日で、経済学部では、スタッフと博士課程の学生と、同学部を卒業してよその大学で活躍している若手研究者らが集まつて、週一回、定例の「水曜研究会」をやつていた。座長は、いま国際経済学会（といつても、国際的な）International Economic Association でなく、

日本の「国際経済学」の学会の理事長をしている小島清君だった。報告者は大学院の学生だった。質問・討論も活発であつた。その年の一月には、経済研究所の大川一司教授が報告をした、とのことだつた。

そういうえば、ケンブリッジの政経学部には、隔週水曜日に研究会があつた。毎週木曜日の午後、ここでも博士課程以上の学生（のようだつた）とスタッフやその他コモン・ルームで顔を合わす研究者などがかなり出席率よく集まつて、報告・討論をしていた。当時、ケンブリッジにいた神戸大学の置塙信雄君（マル経で、数学を多く使う）も「」で一回報告をした。

私はケンブリッジへ移る前には、一九六五年九月末から翌年一月の始めまで、米国のハーヴアード大学にいた。この Littauer Center (経済と政治の大学院の建物) では、×曜研究会というのはなかつたが、国内の他

の大学、あるいは外国の大学から訪れる研究者をかこむ小じんまりした研究報告会をひ

んぱんに開いた。Harry Johnson（市場原理の強固な信奉者、日本にも数年前來た、その後死去）の話を始めて聞いたのは、ここ）のランジの会合でだつた。

うちの大学院の経済学研究科にもこの種の集りがないわけではない。一年に四、五回は博士課程以上の学生とスタッフとで研究会をやつている。報告者は主に学生だが、教授もやる。私も一昨年「世界経済とスタグフレーション」という報告をした。だが、右に書いた三つの大学の研究会と比較すると、いま一つ盛り上がりに欠けているのは否めない事実だ。この種の義務でない勉強会が、報告者の顔ぶれも多彩で、活気にみちている。これが望ましいことはいうまでもない。……また、大学院ばかりでなく、学部のスタッフのあいだにも、あるいは両者合同で、こうい

う研究会があつてもよからう。

学生のクラブ活動と教師

ロビンソン女史については、もう一つ印象の深い思い出がある。当時すでに六三歳でケンブリッジの長老教授の一人であつたのに、学生のクラブ活動に忙しい時間を割いてやつて、女史を講師によんだ。私も、彼女に頼んで、同席させてもらった。場所はClare College（ケンブリッジの「カレッジ」は、単科大学とか総合大学の学部とはちがう。学寮、教師と学生が共同生活をする寄宿舎）の一学生の居室でCWD会員が一〇人ほど、イスに腰かけたり、イスの足りない学生は床に足を投げだしたりしている、というふんい気の会合だつた。

中共びいきで知られる彼女は、「西」の開発途上国遠助の偽善性を強硬な口調で攻撃した。学生との質疑応答のあとで、私も意見を求められたので、女史の見解がやや極端にすぎるのではないか、西側の援助も一〇〇%偽善とはいえないし、中共の教条主義にも眼に余るものがある——というようなことを述べた。女史も私のコメントを諒承してくれたし、学生たちは一人のやりとりを興味探そうに開いていた。

ハーヴィードは、ケンブリッジ出身のハーヴィード氏がニュー・イングランドに創設した大学だから、ケンブリッジのカレッジに似た学生寮があり、そこが同じく学生のクラブ活動の場になつてゐる。私はハーヴィード滞在中に、Harvard and Radcliff World Federationists (Radcliffe College といふのは、ハーヴィードのなかの女子学生) という世界連邦主義の学生グループと知りあい

になつた。その幹事長（早稲田式にいえば）のいる Quincy House という学寮では、週一回「軍縮問題研究会」を開いていた。私もそれに出席させてもらつていたが、一二月の最後の会合で「軍縮と日本經濟」という話をした。「正月になつたら、ケンブリッジ大学へ移るから、これで、さようなら！」と学生たちと握手を交して別れた。

早稲田大学にはケンブリッジやハーヴィードのような学寮はない。しかし、さかんに多様なクラブ活動が、正規の授業だけでは足りないものを消す役割を果してゐる点では同じだ。ことに、早稲田の教師は、教育のマス・プロ化による精神的な疎外状況を痛感しており、それをなんとかして補つてやりたいと念じている。多くの同僚が、キャンパス内で課外の時間に、あるいは遠く追分セミナー・ハウスやその他で、「同じカマの飯」を食べて、学生たちと心の通いあう場をつくり

だしている。

私自身は、朝日新聞社本務の政経学部外来講師から同社を辞任して専任講師になった昭和二六年に、アメリカ研究会という小さなクラブができて、その会長になつた。この会は、昭和四六年、学園第二次紛争のあらしのなかで自然消滅するまで、一〇年間続いた。

「アメ研」の主なメンバーはたいてい学部ゼミのメンバーでもあつた。ゼミ合宿、アメ研合宿で、軽井沢の安部寮、追分の油屋、湯檜曾の奥利根荘、湯が野の福田屋（川端康成の『伊豆の踊り子』の宿）……へ合宿した。学生たちと勉強会、山登り、海水浴などに過した時間の充実感と楽しきは心にしみついている。今までもゼミの学生とは夏休みの終りごろ、追分のセミナー・ハウスで合宿して、いつしょに学問・人生を語り、草野球をやることにしているが、今年度の三年ゼミには、さる一二月三日、全国大学選手権大会の決勝戦

で法政を破つて優勝したときのレギュラー・メンバーが二人いる。サッカー部長兼現役監督の私は、この二人とは、追分合宿だけではなく、菅平寮での夏休みの強化合宿もいつもよだし、平素、研究室でのゼミと東伏見グラウンドとで週に数回、顔を合わせることになる。

ゼミ生兼サッカー部員もこんどが始めてではない。昭和二六年、私が最初に監督をやつた年に関東リーグで優勝した。そのときのレギュラーの一人とマネジャーが私のゼミの三年生だった。そのほか、政経学部で私の講義を聞き、グラウンドでも私に“しほられた”プレーヤーは大ぜいいる。アメ研、ゼミ、サッカーなどで心の通じあつた諸君とは、卒業後もあたたかいつきあいがながく続く。早稲田大学ギャンバスとその四年間の学生生活の、空間と時間の制約を乗りこえた、無形の早稲田大学のひろがりを感じている。続く

東京五輪開催

半世紀前のオリンピックを想起させるモニュメントが、東京駅にある。新幹線18・19番線ホームの階段下の壁に埋め込まれた、小さな銘板だ。

「東海道新幹線 この鉄道は日本国民の叡智（えいち）と努力によつて完成された」
ただこれだけの文言に、起工と開業の日付を記したプレートは何の飾りつ気もなく、政治家の名前もない。しかしながら誇らしげである。

半世紀を経て、わたしたちはいま再び東京五輪開催の栄誉をつかんだ。勝因は、日本という国への絶大な信頼感であるに違いない。この国では列車はダイヤと寸分たがわず動く。治安が良く、街並みは清潔で、人は穏やかだ。衣食住を心地よくするさまざまな工夫は外国人を驚かせる。いざというときの結束力もすごい。

こういう安全・安心・快適を社会のすみずみで下支えしているのは、紛れもなく「日本国民の叡智と努力」である。半世紀前と同じく、名もなき無数の日本人なのだ。

東京五輪をめざして突貫工事で進められたこの大事業は、名もなき無数の人々の力によるのは、荒れた大地に根を下ろした仮設商店街の意氣の高さ、復興への思いの強さである。「勝利の女神は、そんな日本人にほほ笑みを向けてくれたのだろう。もう一度ニッポンな戦から19年で国際舞台に復帰させたのだ。

らではの、そして新しい五輪を見せておくれ。
これから7年。さあ、どんな五輪をつくる
うか。そして、どんな時代を築くべきだろう
か。

東京都の試算では経済効果は約3兆円。間
接的にはもつと大きな波及効果を生むとい
われる。日本再生への期待はいやでも高まる
が、それを本物にするためには、社会に久し
く漂っている閉塞感を打ち破つていかなければ
ならぬ。

安全・安心で確実にことが運ぶ社会は素晴らしい。
けれど、そこにもうひとつ、新しい
空気を吹き込みたいのだ。それはさまざま
な個性を、考え方を、才能を、みんなが互い
に認め合う多様性尊重の風である。そういう
しなやかな社会こそが、本当は強い。

律義で団結心に富み、小さなところへも気
配りができる日本人の特質は、じつは内向き
で排他的な気分と背中合わせでもある。昨今

の偏狭なナショナリズムの台頭もそれを物
語つていよう。そうした落とし穴にはまらず、
他者との共生、異文化との共存を心したい。

もとより少子高齢化が進むなかでの祭典
だ。震災復興と原子力災害の克服を世界に注
視されながらの7年でもある。半世紀前とは
まるで勝手が違うけれど、受け継いできた日
本の美点に新たな価値観を織り込んで、新・
東京五輪へと歩もう。

聖火がともるのは2020年7月24日。

その日に向けて、わたしたちの旅が始まった。

(編集委員大島三緒)

2020年夏季五輪の東京開催を勝ち取
った日本。国際オリンピック委員会（IOC）
総会でのプレゼンテーションにかける安倍
晋三首相の熱意は並々ならぬものがあつた。
「使い慣れていないから難しいね」。首相
は日本を出発する間際まで、プロンプターを

使つて英語でのプレゼンを何度も練習した。
「最後は完全に暗記してプロンプターがい
らないほどになつていた」（周辺）といふ。

ただ、ぎりぎりまで決まらなかつた内容が
1つだけある。福島第1原子力発電所の汚染
水問題に触れるかどうかだ。招致団では「首
相が言及すれば、この問題に対する不安をか
えつてあおりかねない」と慎重な意見が多か
つた。本番の直前に「（汚染水は）完全に制
御している」というひと言を盛り込む決断を
したのは首相自身だった。

3兆円の経済効果だけをみれば、東京五輪
は「ローリスク・ローリターン」（みずほ証
券）。むしろ問われるのは20年の東京五輪
を開催する時の日本経済の姿だ。20年は安
倍政権の経済政策「アベノミクス」の「到着
点」（甘利明経済財政・再生相）と重なる。
20年に国・地方の基礎的財政収支（プラ
イマリーバランス）を均衡させることは国際

公的だ。デフレから脱却し、成長と両立した
形で財政健全化のメドをつけられるか。

実は成長戦略も出口は20年。6月にまと
めた「日

本再興戦略」で、20年までに達成をめざす
政策目標が30項目あまり掲げられている。
ビジネス環境ランギングで先進臥15位か
ら3位以内に。外国企業の対内直接投資残高
を現在の2倍に……。「難しい案件ほど目標
達成時期が20年になつてゐる」と関係者は
明かす。

日本の借金は国内総生産の2倍を超え、先
進国で最悪。小子高齢化で社会保障の負担も
重くのしかかる。東日本大震災からの復興や
福島の対策も待つたなし。東京五輪はこうし
た懸案を克服し、日本経済を再生させる一つ
の道標となる。そのために消費増税を含めア
ベノミクスの着実な実行は不可欠だ。

20年のさらに先にも目を向けたい。「メ

ダルをたくさんとれる最後の大会」。三浦展氏は著書「データでわかる2030年の日本」で少子高齢化を理由に次の東京五輪を予測した。2060年の総人口は9000万人を割り込み、5人に2人が65歳以上の高齢者。14歳以下は総人口のわずか9%強で、選手の数も今より激減しているだろう。

現在の首都高速道路などは1964年の東京五輪にあわせて整備されたものが多い。これから建設するインフラは2050～60年ごろを視野に入れる必要がある。

「五輪はお祭りなのでその後はまた平穀な日常が50年以上続く。世界中が高齢化に向かうなか、東京が世界のモデルになることを示す五輪になつてほしい」と元五輪陸上選手の為末大氏はパラリンピックを中心としたバリアフリー型の都市計画を思い描く。

前回の東京五輪は戦後復興の象徴。今回は大震災からの復興と、高齢化や財政悪化、エ

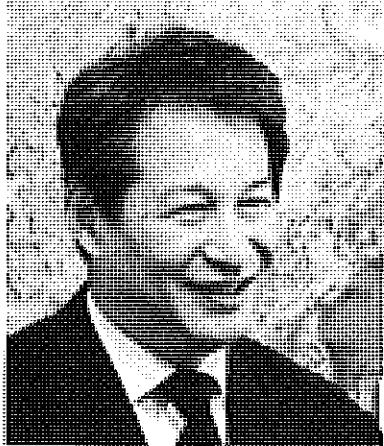
ネルギー制約という「課題先進国」としての日本が、持続可能な経済の範を世界に示す好機と考えたい。（瀬龍繁、高橋哲史）

対 ASEAN

協力強化 日本の戦略示せ

政策研究大学院大学学長

白 隆



先頃、ブルネイで、東南アジア諸国連合（ASEAN）関連外相会議が開催され、ASEANおよび日米中韓などによる一連の会議外交が繰り広げられた。

ASEAN・中国外相会議では、中国とフィリピン、ベトナムなどが争っている南シナ海の領有権問題について、法的拘束力を持つ行動規範の策定に関する公式協議を、9月に開始することで合意した。昨年7月のASEAN外相会議が、この問題をめぐつて紛糾し、共同声明の採択を見送ったことからすれば、大きな前進である。

しかし、これは、南シナ海の問題がすぐに解決に向かうということではない。

中国は、南シナ海の問題は当事者の2国間交渉で解決すべきとの立場を変えていない。中国とフィリピンの巡視船が睨み合った末、中国が実効支配を確立する形となつたスカボロー礁の領有権問題でも、フィリピンが国連

海洋法条約に基づく仲裁裁判所に提訴したのに對し、中国はこれに応じていない。

また、フィリピンが実効支配しているスプラトリー諸島のアユンギン礁沖では、最近、中国の監視船が居座り、ASEAN・中国外相会議の直前にも、中国は“わが国”的主権を侵害する行為を停止しようとフィリピンに要求した。おそらく中国は、行動規範の策定作業を早期に進めるつもりではなく、当面は南沙海の実効支配の実績をできるだけ積み上げていくということなのだろう。

あらかじめ述べておけば、こう書き出した

からといって、日本としても「中国牽制」のためにもつと手を打つべきだ、というのがこの小論の趣旨ではない。

日本は、第2次安倍政権成立以来、きわめて活発に東南アジア外交を開拓している。安倍首相は1月にはベトナム、タイ、インドネシアを歴訪し、5月にはミャンマーを訪問し

た。今月下旬にはフィリピン、マレーシアなどを訪問する予定である。東南アジアはそれ自体、日本にとって重要な地域である。また東アジアの安定と繁栄のために、日本が東南アジア諸国と協力関係を強化するのも当然である。なのに、メディアは首相、外相、防衛相などが東南アジア諸国お訪問すると、決まり文句のように「中国牽制」と書く。それが全く誤りだとは言わないが、日本の東南アジア政策、まして東南アジア政策がすべて「中国牽制」を目的とすることなどありえない。

東南アジアがいかに重要かは、次の数字を見ればよい。2000年、中国、ASEAN、インドの国内総生産（GDP）は、それぞれ日本の25・3%、12・6%、10・1%だった。それが12年には、中国137・9%、ASEAN 37・9%、インド25%に拡大。IMF（国際通貨基金）の推計では、18年

には中国252%、ASEAN62・3%、インド50・2%になるとされる。

では、いかにして東南アジアとの協力関係

を強化するか。ASEAN10か国の国益はそれぞれに違う。また、人口2億3000万人を超すインドネシアを別として、中小規模の国である。そういう国々が個別に発言しても、国際的には重視されない。だが、まとまれば重みを持つ。ASEANは、東南アジア諸国にとつて交渉力を高めるための「てこ」なのである。

日本の政策も、ASEANのこうした機能を十分發揮できるよう加盟国を支援していくことが基本となる。結果的に、それがASEANの対中交渉力を強めることにもなる。

ASEANは2015年までに安全保障共同体、経済共同体、社会文化共同体を構築するとしている。だが、安全保障共同体の構築は、南シナ海の領有権問題を考えると容易

でない。中国をどれほど脅威と受け止めるか国によつて違うし、中国はそこを突き、各国分断の戦略をとつてゐる。

日本としては、国連海洋法条約をはじめとする国際法の尊重と順守、力の一方的な行使の自制を原則としつつ、行動規範の早期策定を促すとともに、東南アジア諸国の海上警察力の強化支援が必要である。具体的には、フィリピン、ベトナムなどへの巡視船の供与であり、将来は、巡視船建造の技術協力にも踏み出すべきだろう。人身売買等の越境犯罪、新型インフルエンザ、環境破壊、災害など「人間の安全保障」分野の協力も重要な課題である。

一方、ASEAN経済共同体の構築は順調に進んでゐる。日本はASEANの連結性を強化する形で支援している。ただし、これについては、ベトナム、タイなどの大陸部東南アジア（大メコン圏）と、インドネシア、フ

イリピンなどの島嶼部東南アジアを分けて
考えた方がよい。

大陸部東南アジアでは、中国が昆明を起点
として、北から南に高速道路、高速鉄道、港
湾等、インフラ整備を活発に進めている。一方、日本は、「ベトナム—ラオス—タイ」「ベ
トナム—カンボジア—タイ」という二つのル
ート上で、物流インフラの整備を支援してい
る。このインフラ整備をミャンマーまで延伸
していく必要がある。

ミャンマーは、11年の民政化以来の改革
開放政策で急速に世界に開かれつつある。日本
も、旧首都ヤンゴン近郊のティラワ経済特
区の開発や金融システム構築などの支援を
始めている。

だが、ASEANの連結性強化や、バンコ
クの産業地域をハブ（中心）とする生産ネッ
トワークの展開を考えれば、西隣のミャンマ
ー南部、ダウェイ経済特区の開発が戦略的意

義をもつ。ダウェイは、バンコクから西へ3
00キロのインド洋岸に位置する。バンコクか
ら高速道路で結ばれ、港湾施設が整備されば、
ダウェイは良港となる。そうすれば大陸部東
南アジアの生産ネットワークは、マラッカ海
峡まで大回りせずにインドとつながり、大幅
な時間短縮の恩恵を受ける。タイ、ミャンマ
ーは日本の支援を求めており、日本政府の決
断が求められる。

一方、島嶼部東南アジアの課題は違う。1
2年の一人当たりの国民総所得（GNI）は
インドネシア、フィリピンともに4000ドル
を超える。この水準になると耐久消費財市場
が急速に拡大し始めると言われ、両国の経済
発展はめざましい。

両国は、10～15年先に「中所得国の罠」
に陥らないよう、将来の成長のための投資が
重要になる。途上国は1万ドル台に乗せたあ
たりで成長が伸び悩むことが多い。これが「中

所得国の恩」である。両国とも、国民の生活水準向上への期待が増大し、成長への投資か再分配かをめぐり政治の舵取りは難しくなるだろう。日本としては、人材育成、インフラ整備等の支援とともに、成長への投資に少しでも多くの資源を振り向けるよう、支援することが課題である。

日本政府はすでに、ASEANの連結性強化、海洋安全保障協力、メコン開発支援など、個別政策ではさまざまに取り組んでいる。いま必要なことは、こうした政策の全体像を示すことである。今年12月には、日本・ASEAN特別首脳会議g東京で開催される。その機会に、東南アジア政策の全体像を、わかりやすく、また体系的に示すことを期待したい。



作品 関根常雄

国家資本主義のワナ

守るのは繁栄か、体制か

日本経済新聞

本社コラムニスト

土屋英夫

* * * *

20年前、中国の郷鎮企業を見て回ったことがある鄧小平氏が改革開放の加速を唱えた「南巡講話」の翌年の1993年。動きが鈍い国有企業を尻目に、農村部の郷（村）や鎮（町）の新興企業の台頭が、もてはやされていた。

河南省洛陽市近郊の村のH社のG社長を思い出す。地域最年少の村長だったが文化大革命で失脚、村民に請われて復帰した人だ。

村の木を伐採・売却した資金を元手に、地域に少なかつた革靴製造を手掛け、紡績、ニット、染色、縫製、食肉加工と手を広げて寒村を救つた。世界銀行の融資を受け、ドイツ製の機械を入れ、米国のプロバスケットチームのユニホームも受注していた。

G社長をはじめ中国の改革開放を長年支援してきたその世界銀行が、中国の国務院開発研究センターと共同でまとめ、昨年2月に

脱デフレのアベノミクスを脅かす伏兵は、中国かもしれない。バブルが壊れ中国がデフレに沈めば、世界不況に逆戻りしかねない。資源国オーストラリアは、中国の成長減速のあたりで金利を過去最低に引き下げる。リーマン危機をはね返したかに見えた「国家資本主義」が揺れている。

発表したり。ポート「中国2030」を、改めて取り上げる意味がありそうだ。

こんな記述がある。中国の成長鈍化は避けられないとしたうえで、「突然の減速が、高成長で隠されていた銀行、企業、各級政府の非効率や、予期せぬ負債を露呈させ財政・金融危機を引き起こすこともある」と、ハードランディングの可能性を否定しない。

リポートは、中国が「中所得国のワナ」を避け、「近代的で調和がとれ創造性ある高所得国」になるための改革を提案する。

国有企业が、やり玉に挙がる。4社に1社

以上が赤字で、生産性の伸びは民間の3分の1。経営陣と政府の官僚が支え合い、経営者は官の非公式の指導を受け入れる一方、銀行融資や商機へのアクセスや、競争からの保護などで優遇されている、と容赦がない。

国有企业は、先鎔基元首相が90年代に果敢にリストラを進めたが、昨今は、民間企業

を圧迫する「国進民退」が問題になるほどに盛り返した。リーマン危機後の景気対策4兆元（約60兆円）も、国有企业が独占するインフラへの投棄が多く国進民退に輪をかけた。

米フオーチュン誌が先月発表した世界企業の総収入が基準のランキング「グローバル500」に、中国石油化工集團（シノペック）の4位を筆頭に中国の85社（香港、台湾は除く）が入った。うち国有企业が78社。民間は華為技術（ファーウェイ）など7社にすぎない。

世銀リポートは、国有企业の役割見直し、特定分野の独占排除、民間企業の参入障壁引き下げ、金利の自由化など、市場経済化の完遂を求める。政府は、無駄なく、クリーン、透明、高効率にして、法の支配の下で運営せよ、という。

メッセージは明らかだ。「中所得国のワ

ナ」イコール「国家資本主義のワナ」であり、國家と資本主義の癒着を断てというのだ。

* * *

ベルリンの壁が崩れた翌年の90年春、モスクワを取材した。ソ連時代の最末期だが、ゴルバチョフ大統領の「ペレストロイカ（改革）」で、市場経済化の号令がかかり民間企業の走りの「コーベラチフ（協同組合）」も解禁されていた。

希望に満ちた話が聞けるだらうと思つて会つたハイテク関係のコーベラチフ経営者の口から出たのは、意外にも繰り言だつた。「成功している経営者の中には、政府や党に強いコネがあるか、違法ストレスの仕事をしてきた人が多いので、世論の風当たりが強い」「各省庁はそれぞれコーベラチフを規制する省令をつくり、官僚の支配下に置こうとする」などと。

ソ連がロシアになり20余年、かの地の民

間企業の状況は変わつていないのでないかと疑いたくなる。

グローバル500にランクインしたロシア企業は、天然ガス最大手のガスプロム、石油のルクオイルなど8社。国有企業と、経営トップが政権と密接なオリガルヒ（新興財閥）企業が並び、ほとんどがエネルギーと鉱物関連だ。

今年4～6月のロシアの成長率は前年同期比1・2%と、プーチン政権の目標の5%にほど遠かつた。シェールガス革命は、ガスと石油に寄りかかるロシア経済には大きな脅威だが、エネルギーを補完する成長産業が育っていない。これも国家資本主義の欠陥か。

* * *

リーマン危機で、「カジノ」資本主義が批判され、中国やロシアの国家資本主義が持ち上げられた。

振り子が戻ろうとしている。中国は4兆元

対策の後遺症のシャドーバンкиング（影の銀行）問題や、官の腐敗への対応を迫られている。フランス革命を分析したトクヴィルの「旧体制と大革命」がベストセラーになつているともいう。

米国の政治学者イアン・ブレマーは著書「自由市場の終焉（しゅうえん）」で「国民の繁栄と体制の安泰、どちらか片方を選ぶよう迫られたら、国家資本主義国の政府は判で押したように体制の安泰を選ぶはずだ」と書いている。

中国共産党は、秋に開く中央委員会第3回全体会議（3中全会）で、経済改革の方針を決めるようだ。守るのは繁栄か、体制か。



關

作品 関根常雄

日本の若い人達へ（2）

ランコ岩本
(米国ジャーナリスト)

日本の若者達の悩みの一つは、自分の「やりたいコトが解らない」自分が「何に向いているか解らない」であることは間違いないようだ。いま風に言うと「自分探し」となろう。

この問題の根底にあるのは、日本人の生活

が豊かになって、日常生活上の「多過ぎる選択」があると思う。「さあ、『自由に』欲しいモノを選びなさい」となると、意外に私達は目が眩んでしまうコトが多い。

さてそれでは、若者特有の内から突き上げる生命力を「やりたいコト、自分に向いていいコト」に集中したいが、「それが『何か』が解らない」という若い人へのヒントとなれ

すれば、「これをしたい！」とはつきり意識している人は幸せだ。「これ」に向かつて邁進する過程で立ちふさがる色々なハードルを乗り越えるのに無ければならないモノは「情熱」。この情熱が強ければ強いほど、それに比例して、苦境に耐える根性が育つし、気分的にどんぞこに落ちても、這い上がる気力を失わず、「絶続」し続ける事が出来る。「継続は力なり」というように、諦めず、屈せず努力し続けさえすれば、必ず或る日、「成功」となる。成功の形は、人生の門出でイメージしたものとは違うかも知れないが、やりたいコトをこつこつと継続してやり続ければ、必ず成果に繋がる。

ば、と私が若い時にどのようにして「自分に向いている」コトを見付けたか、を書いてみたい。

終戦直後の日本はこんどんたるものだつた。それまで「正しい」と數えられてきたことが「間違つてゐる」となつたから当たり前だ。日本は、朝鮮のよう南北に分断されることなく、ソ連軍参加なしで、進駐軍はアメリカだけ、と決まつた時、私達は本当にほつとした。

しかし、前代未曾有の敗戦となつて、私達は「これから日本はどうなるのだろう?」の不安感で苛まれていた。日本の行方は私たち若者自身の人生を左右することになるから、私も「日本はどうなる?」としきりに悩み考えた。次代の日本を背負う若者として、

「自分は何に向いてゐるか?」を熱が出るほ

ど思索した。当時の日本女性は、賢婦の教え「幼少時は親に従い、嫁しては夫に従い、老いては子に従う」で育てられていたが、どうもそれは私の人生向きではないようだ、とう意識していたらしい。戦後怒濤の如く日本に導入されたアメリカのデモクラシー思考も大いに関係していたに違いない。

当時私は情熱を傾けてピアノに熱中していた。不思議なことに、将来ピアニストになりたい、と具体的に考えたわけではなく、ただただ音楽が好きで、といった感じだった。若しかすると、戦後の混沌とした環境で、静寂を求めて、ベートーベンが「月光」をかいだ時の心境を思いやつたりバッハに異様なまでに慰められたりしたかつたからかも知れない。

この過程で、或る日ふと思つたコトがある。

今や私は長い人生を生きてきて、この「ふ」と「私達が思うコトは「天啓」と、考える人間となつてゐる。「探せば道は見付かる」というように、何かしきりに考へてみると、「ふと」頭を横切るように出現する思い付きみたいなことだ。

若かつた私の頭を「ふと」横切つたその考

えは、「運命というモノがあるのだろうか?」
というコトだつた。私は「流れに逆らつて泳
いでいる(生きている)のではないか?」と
ふと思つた。理由は、いくら努力しても、人
並みにピアノが上達しないことだつた。私は
クラスで級長などしてリーダー格だつたか
ら、そういう私が人の3倍努力しても彼ら同
様に上達しないコトが解せなかつた。運命を
川にたとえて、洗いでも泳いでも、出発点に
押し戻される感じのは、「流れに逆らつて
泳いでいるからではないか?」

ならば、流れにそつて泳ぐには…?で、これ
まで自分がすらすらとこなしてきたことは
何だつたか?と越し方を振り返つてみた私
は仰天した。何とまあ、私に向いているコト
の答えが、克明に刻まれていたからだ。

それは「言葉」だつた。「書く、話す」コト
が私の適正だつた!

作文では最高の成績を取るのに、文法とな
ると落第。戦争中敵国語だからと、「英語」
は「法度」。「ポケットはモノ入れ」「ナイフ
は小刀」「スプーンはお匙」と言うよう強制
されていたのに、私は密かに英語の独学をや
つていた。それで終戦となつて英語が教材
に戻つた時には、日本人の英語の先生より私
の英語の方が上手かつたらしく、「貴女は英
語のクラスに出なくてよろしい」と言われた

り……。終戦後初めての英語でのスピーチ・トナメントで優勝したり……。

アメリカの意思疎通の架け橋となれるので
は……？

自分の適性を知ったその瞬間、何とまあ、自分がアメリカ留学をする運命、今まで「ふと」閃いたから驚きだ。

「日本はどうなる?」は、「世界は2つに分かれる。ソ連を雄(リーダー)とする共産圏とアメリカを雄とする自由圏に。日本はどうらにつくか?」と考えたら、答はすらすらと出た。勿論、自由圏だ。日本はアメリカとコミュニケーション出来るか?「出来ない!」

ならば、アメリカの若者達と生活を共にすれば、彼らとの効果的コミュニケーションのやり方を体得できるだろう……そして日本と

で、私は留学生として横浜から出発した。アメリカへと続く「道」が見えた時から、6カ月後のことだった。「いかん!」(ダメ!)と言うに違いない父には内緒で、渡航費の調達からVisa、パスポート、受け入れ大学探し、入学許可など、全て「自力で」こなすことを条件として自分に課してのことだった。「流れにそつて泳いでいる」ことを確認したかつたからだった。

昭 経 俳 壇

選者 佐々木 誠 吾

三 郎

剣太郎

飲み騒ぎ一夜のあけしパリー祭

涼しさや山なみつゞく上高地

葛飾の井戸汲む音や今朝の秋
異常気象予報士吊するてる坊主
ラマダンの午の祈りや百日紅

草の矢を放てば空の広さかな

万緑の蛇笏龍太の山河かな

ガラス器の氷の音の絹豆腐

子坊主の蚊を打ちてまた経を読む

枝豆の塩の白さやひとり酌

渦を巻く蚊取線香も星雲も

H・ドッペルフェルト

燕去る空も空家となりにけり

花菖蒲傘の波間にちらほらと

長き夜や洋書に葉ブランデー

梅雨晴間空に反り橋虹の橋

秋の夜のつい口癖のどっこいしょ

那須連山雲は動かず梅雨の入り

満月の桂林空港降り立ちぬ

梅雨の音読経の声と相和して

山寺の渡り廊下の虫時雨

悟 風

尼寺の厨に聞こゆ虫の声

最果ての霧にかかるる国後島

千鶴子

黙認の遅刻早退夜学生

首あげて怒りてもみよ夏の老犬

昼顔やひがな想ひしことひとつ

出水して牛一頭の月明り

独り居の卓にひさびさ胡麻豆腐

郭公を探しあぐねて森の奥

重き荷は全て捨てよと夜の薔薇ばら

草笛や夕焼け小焼けの里もどり

これ以上澄みやうがなし沢の水

砂浜や夕陽追ひ行く裸つ子

朝寝して一食はぶくサクランボ

富喜男

どんぐり

端居して眺む鞍馬の峰つづき

出稼ぎの兄を見送る草の笛

青鳥の洗濯板の古すだれ

姉嫁ぐ茄子を漬けたる桶一つ

月赤くかかる鴨川極暑かな

つき出しのさじきも暑し京の宿

山人

岩清水ひつそり閑と尼の寺

夏海へなだれ落ちゆく能登岬

夏場所や異人力士の祝ひ酒

ねころんで母の夢みるお花畠

樽舟を漕ぐ海女二人土用入

谷川の揺れるつり橋夏穂高

夏雲の崩れて広き日向灘

ふりむけば山路の果てに夏の富士
口開けてカラスのうだる暑さかな

妾宅に涼しさ残すよしずかな

夏山の迫りてて深し谷の水

後記隨想 佐々木誠吾

ました。安倍さんの国際的な大舞台での、面目躍如の演技でありました。

二〇二〇年オリンピック・パラリン・
ピック開催地が東京に決定

日本時間で今日九月九日午前五時二十分、二〇二〇年夏季五輪の開催国に東京が決定しました。私はこの瞬間を早朝のテレビで見て、歓喜と感激を隠しきれませんでした。猪瀬京都知事を初め招致委員の皆さん、これまでの一方ならぬ御苦労をねぎらい、国民の一人として深く感謝いたします。日本の情熱的なプレゼンテーションの素晴らしさも深く印象に残っています。危惧されていた原発事件の汚染水の問題も、IOC委員からの質問に対し、安倍首相の的確な説明と自信に満ちた対応を聞いて、東京がイスタンブールに勝つて大きな支持を得るに違いないと確信しましたが、同じようにこれがIOC委員の共感を買つたことが最大の武器となり

ました。安倍さんの国際的な大舞台での、面
目躍如の演技でありました。
國民も、この時の安倍さんの発言によつて、暗然と悲観的に受け止めていた原発事故の処理については、日本の未来に光がさしたよう感じましたが、これがその場限りではないこと、幻想でないことを願つてやみません。汚染水の問題はもとより、その原因となつてゐる原子炉の燃料棒の完全な除去こそ問題解決の基本であります。一刻も早く実効的な問題解決に動きだし、国際社会の信託に答えていかねばなりません。これこそが東北被災地と被災者の眞の救済につながり、強力な復興への道筋となるでしょう。五輪がもたらす経済効果も計り知れません。ひよつとすると安倍さんが政策として掲げている三つの矢の一つとして、即ちアベノミクスの第4の矢としての役割を果たすものとなるでしょう。

今度の五輪の候補地として上がったトルコのイスタンブール、スペインのマドリード、日本の東京ですが、それぞれの間で激しい招致活動が続けられましたが、何とも皮肉な時代の巡り会わせで、奇妙な印象を与えられました。三都市とも、ディケンズの「二都物語」なら優雅な気分になりますが、お粗末ながら、それぞれ脛に傷を持つた重大な欠陥を持つています。スペインは癒しがたい経済的低迷、不況と混乱、トルコも激しい政局の混乱とデモの続発、隣国のシリアでの内戦状態と流民の問題、日本は原発事故による放射能被曝の問題などを抱えて、普段ならすべて落第の憂き目にあう劣等生でした。この劣等生が持つ脛の傷は、現代人間社会の苦悩を現しています。三つの苦悩と云つても過言ではありません。現代社会は深刻な経済問題、残酷な戦争、そして地球規模での環境汚染であります。五輪候補に挙がった3都市は、いずれも現代の

苦悩を表徴するもので、人類にとつて警鐘を打ち鳴らしています。五輪精神はこの負の遺産を払しょくし、克服して人間性を謳歌するもので、人間の尊厳を認識し、高めていくもので、これは希望と勝利への道であります。IOC委員の苦悩もわかるような気がします。劣等生を対象に、劣等生の間での激戦となり、消去法の形で最後に日本が残されたということでしょう。候補地の決定には、今どきの重要な世の中の関心を集めたような感じがして、大きな教訓を残してくれました。日本はこの放射能被曝問題の大きな国家的問題の解消が、国際的にも責任として課せられました。

今、世界は二つの明暗に分かれていました。平和の祭典、五輪の開催地を巡る国際間の攻防、駆け引き、片やシリアの化学兵器使用に對し軍事攻撃をかけるかどうかの国際間の攻防と駆け引き。この二つの攻防と駆け引き

が、同時進行で行われていました。表題は文字通り、文豪・トルストイの「戦争と平和」

で、舞台は名作オペレッタの「会議は踊る」の場面がありました。アルゼンチンのブエノ

スアイレスの地で、片や、ロシアのサンクトペルクで愚か者が大きな課題を抱き込んで大騒ぎして暴れまくっていました。一つは絶滅すべき人間の戦争、一つは継続すべき平和

の競技の祭典、人間の性丸出しの結果について、問題は複雑であります。

安倍さんも国民も、政府と官民が一致団結

してこの難局を克服しなければなりません。奇しくもこれは国際公約となりました。20年開催の五輪の各種会場と施設を含め、世界

のアスリートを初め、応援に駆けつける沢山のお客さんたちを安全に迎い入れるために、万全の受け入れ態勢を構築すべく努力していくねばなりません。希望と自信を以て明るく、五輪招致決定の後の、確実な建設に向か

て進んで参りましょう。

拂き立ちて二千二十年のオリンピック東京招致に決まる瞬間

オリンピック東京招致の七年後決まる瞬時の朝の五時半

日本の五輪招致に成功すアベノミクスのさらには速す

日本空に五輪の虹の花かかりて平和の軸足とせん

くにたみの英知と努力でこの国の栄えの基礎を築く譽れば

汚染水除去に決意の安倍首相五輪招致に功を奏しぬ

オリンピック招致に安倍のプレゼンス大上
段に見事なりけり

頻発す原発事故の汚染水懸念払しょくに安
倍の演出

日本の五輪招致に成功しアベノミクスのさ
らに加速す

富士やまに光る朝日に五つの環めでたくか
かり国は妙なり

あと十年生きながらえて楽しまん東京五輪
といふ友のあり

千年も万年もわたし生きたいわ浪子の声の
切にありしも

われもまた千年も万年も生きたいと強欲に
生きしみじみと生き
望み託して

しなやかな社会を築くこの国の先に新たな
肉体の美と力とを競いあひさらに心と技も
加へて

しきしまの空に五輪の花の虹かかりて平和
の軸足とせん

達成の歓喜に踊る若者の自由と平和の国な
ればこそ

沈滯と閉塞感を打ち破り大空たかく飛べ鷹

に似て

祝へばや五輪開催の東京に力と技と美をあらはして

九月九日

戦争回避に急展開

米ソの現実的提案

オバマもブーチンも偉い。シリアを巡つて攻撃するかしないかで戦々恐々だつたが、二人の英知が勝つて、話し合いが出来て、シリア攻撃を思いとどまることができた。相互理

解と相互協力でできれば電話一本で話がつかのである。戦争を始めれば、攻撃された方は必死になつて抵抗し反撃してくるだろう。攻撃する方は躍起になつて弾丸を撃ち込むだろう。地中海に展開する駆逐艦にも、莫大な金をかけているから必死である。

双方の痛手は短期とは言つてもイラク戦争どころではない。イラクは化学兵器を持つてなかつたが、シリアは持つてていることが分かつた。アサドの脅しはフセインの空だまと違つて本気らしい。そこでシリアの持つていう化學兵器を国際管理下に置くことにしようとブーチンの提案である。狡猾なアサドはブーチンの提案を受け入れることに同意した。オバマもこれに同意する形になつた。

私は先の発言で、殴られたり、殴つたりして喧嘩をしなければ決着できない様では畜生の類いで屁にもならないといつた。たかがアサドの一人に手ごまねいて、まさかオバマ

やプーチンが、こんな始末では大国のリーダーとして世界を指導していく資格がないといつてはいたが、互いにこぶしを振り上げた二人が、冷静になつて、いい知恵を出し合つて、わんぱく野郎の狼藉を止めることができたことは、G20ではだらしない振る舞いだつたが、ここで男前を挙げた感じがして安堵している。G20でも喧々諤々でオバマとプーチンが喧嘩別れしたような印象でがつかりしたが、水面下で交渉していたようである。

貫禄と威儀がついてきた安倍さんが、人のうわさによると何でも二人の仲に立つて、いい立ち回りを演じて、両方に妥協を迫つたようで、飛ぶ鳥の勢いはむしろ悠然として飾らずに、慌てず、ためらわず、ぼんくら連中をたしなめていることは立派な振る舞いである。格好ばかりの麻生さんと違つて実利的で感じがいい。どうも麻生さんは貫禄をつけようとして、かえつて失敗している。誰しもこ

んな欠点は持つてゐるが軽妙に演じてくれればスマートでいいが、締まりがなくなつて猿の尻笑いに終わつてしまつても困る。安倍さんは飾らないところがあつて明るく、結構庶民的であり、品の良さとなつて癖がなく、こうした人柄が受けているかもしれない。シリアル問題で、こわばつたG20の雰囲気を和めてくれたのではないだろうか。国家としての品格といった言葉を思い出したが、こうした国際舞台に立つてみると顕著に目につくことでもある。一人の政治家によって国としての見識、品格、が、富や軍事力に勝つて指導力を發揮するのである。

まずは混迷を深める中東地域の戦争回避と云う雰囲気になつて、世の中がその分明らくなつてくるだろう。これを突破口にして、シリアル内戦の収束宣言に持つて行つてもらいたいものである。野田さんの原発事故の収束宣言はインチキで、国民は騙されてしまつ

た。あれ以来国民は放射能問題で散々な目にあっている。現実は使用済み核燃料棒の安全摘出と処理や、そこから今以て出てくる放射能汚染水は、執拗に生じて止まる気配は全くない。阿部さんは五輪招致に当たつて、事故処理は万全ですべてはコントロールされていいるといって仕舞つたが、どんなことをしてもコントロールして成し遂げないと、国際公約になつてしまつたから責任が大変である。

アラブの春に咲いた民主化運動も、何が何でも欧米的な民主主義を進めろというわけではない。国それぞの伝統と歴史としきたりがあるし、それぞれの国情に合つた制度、政策があるから画一的にはいかない。しかしどのような状況にあっても、民意に沿つて政治と政策が、公明正大に行われる事が一番大切なことである。だからシリアの件についても穩健に、抗争のない国情と、民衆の生活

向上に持つて行つてもらいたい。国連もそうだが、やはりロシアとアメリカががつちりと手を組んで、地球規模の政治を心がけて行つてもらいたいと念願している。今回のシリアの件がこのままの勢いでうまく收まれば、米・ロの大国は、正氣に戻つてやれば出来るんじやないかと云うことを証明したことにもなつて、オバマ、ブーチンの男が大いに上がつたことになり、めでたしめでたしで、これから将来が建設的に、前進的に、平和的に進むことになろう。先の論評で鬼畜、野獸のアサドは仕方がないにしても、オバマやブーチンに八つ当たりしているわけではないが、世界の狼藉どもを抑えるには、今のところオバマとブーチンしかいないだろう。オバマとブーチンが手を握つたら、そして良識を以て行動力のあるわが日本の安倍さんが仲立ちに入つて調整役ができれば、人類の幸福を願つて平和の国際社会の構築に力を合わ

せて戦つていつたら、怖いものなしだろう。それでこそノーベル平和賞に値するものである。八つ当たりが大当たりだつたなんてことがないように願いたい。

ブーチンの匙加減で、世の中が良くも悪くもなるというのだから、ブーチンも大したものである。大したものであるということは、佳いことをしてればと云うことである。今のこところは、オバマとブーチンの努力と英知で不埒な世界からの突破口を拓けば、この先の人類の努力次第で、人類社会は「神の国」に近い形で、まばゆい希望と光に満ちた輝かしい国の到来のごとく、平和で安泰な世の中になるだろう。国連の安保理に問題を持ち込んでみるのはベストだが、この場で大国がまたぞろかけひきに終始するようだと、折角のチャンスを逃すことになる。ここはブーチンも、オバマも大局に立つて、腹を大きくして大雑把に決着すべきだろう。ここまで来たからに

は、解決のすべてはオバマとブーチンにかかるべきだ。G20の会で先頭に立つて解決に当たるべきリーダーがふらふら愚図々々していたので、腹いせにオバマとブーチンを捕まえて、くそみそにけなしたが、これは取り下げておきたい。ご免ね。

ただしシリアの問題を平和裏に解決して、アサドを心から改心させてもらいたい。この人間は修繕してみても、よい使い道はないだろう。親譲りで二代目の世間知らず、苦労なしの気の荒い男、世間でも良く見かける類いである。こうした輩が独裁政治のリーダーに立つと権力志向のみに走つて手に負えなくなる。国民は悲劇である。そして国民を敵に回して残虐を繰り返して憚らぬアサドは、見せしめにやつぱり追放だ。残忍極まるナチのヒトラーと同じで見るからに冷血的であり、いつも蠟燭のように突つ立つて温かみのない表情、そのアサドは吸血鬼以上にハイエナ

であり、民衆の敵となるゆえ、追放される身である。常に民主主義と人類の敵に立つ男だから。

九月十一日

統・シリア問題について

米国のケリー国務長官と、ロシアのラブロフ外相との会談が精力的に行われ、シリアの化学兵器に関して両国間で合意に達したことは喜ばしいことである。合意の内容は、シリアが保有する化学兵器を軍事的攻撃と破壊によるのではなく、外交的な手段で廃棄するというものである。しかもこれを確実に履行させるために、国連安保理で決議を採択し、速やかに実行すると云うものである。これによつて危惧されていたアメリカによる

シリアへの破壊的な武力行使は、確實に回避されることになった。オバマとブーチンの指示を受けて、ケリーとラブロフが懸命になつて英知を絞つて得た結論であり、両者の利害関係が一致したとはいへ、近来にない素晴らしい平和的な外交的成果を見させてくれた。大国らしい毅然として姿を演じて多くの共感を呼ぶものであり、歴史的教訓を見せて広く将来の展望を明るくするものである。何かと国家間の紛争の火種が絶えない中、それ故ぎくしやくした世界情勢だが、しかしこうした紛争の解決に当たつては、大国の力と指導力を互いに強調的な姿勢で解決に努力することが重要であり、これは世界的潮流として把握することが大切である。

昔と違つて迅速かつ多種の複雑な情報が錯綜する時代である。事象の認識も異なつた次元でとらえていかないと、方向と指針の判断を誤つてしまふ可能性がある。その結果は

予想をはるかに超えたものとしてすぐさま自國に、自分自身に降りかかるものである。

大国はそれにふさわしい姿勢と行動をとることが、局所的に頻発する紛争解決に入る場合の大きな武器となつて、いわゆる交渉力を發揮してくることになる。今回はアメリカの強硬姿勢に、世論を気にしたイギリスが議会の反対を受けてあつさりと攻撃参加を中止したことが大きな前進となつた。この冷静な判断が、強気のオバマを後退させた大きな節目であり、原因であつた。キヤメロンの民主主義的選択と判断は、いさぎよさとスマートさに感服しているし、戦争と混乱を避けた歴史的功績として残るだろう。つまり冷酷無比の殺戮戦争を避けることができたのである。シリアは無論のこと、これを傍観している核開発のイランや、北朝鮮は寧ろ無言の脅威を見せつけられたのではないかと、アメリカの信念と決意を甘く見てはならないと警告したいところである。

今回はオバマの勝利だと、私は断言して憚らない。戦わずして勝利するということだつてある。アメリカは、オバマはその道を選んだ

さを取り戻し勇氣ある決心であり、これは反対してアメリカの政治力と軍事力の大きさを実証するものとなり、アメリカはじめ同盟国の攻撃に対しても、直ちに報復措置をとるというメッセージになつて、現実を知れば知るほど彼らにとつて選択を誤らせないものとなり、無駄な選択は自國にとつて決して利するものでないということの明白な忠告となつたであろう。大金をと威信をかけて地中海に艦隊を集結し、準備万端、攻撃を目前にして思いとどまるエネルギーの消耗は決して悔れないものである。シリアは無論のこと、これを傍観している核開発のイランや、北朝鮮は寧ろ無言の脅威を見せつけられたのではないから、アメリカの信念と決意を甘く見てはならないと警告したいところである。

ことになる。

シリアは、アサドは最後のあがきを見ずに済んだ。この際悪事に走らず改心し、国内の内戦状態に終止符を打つべく、反政府側と和平交渉の道筋をつけるべきである。そして自國の民衆の女、子供たちの犠牲をこれ以上増やしてはならない。アサドが今後において選ぶ道は一つしかない。穩健な退陣道を敷くのため、神の許しを乞うて、過ちを改むるに憚ることなきれの東洋思想の教訓を実践すべき時である。そして犯してきた数々の罪を謝罪し、大虐殺について明らかにし、神の審判に服すべきである。

九月十四日

周年記念礼拝が今朝、いつものように10時半から行われました。教会は拙宅から徒歩5分ぐらいのところにあります。丁度、玉川聖学園の隣に接しております。私が教会に通う道も徒步で行けば良いのですが、近いくせにいつも慌てていくものですから横着してクルマを飛ばしていくことがしばしばです。しかし自転車をこいでいく時もあります。勿論、運動のためと称して歩いていく時もあります。その時々の気分次第で、通い方が微妙に違っています。

徒步で行く時は拙宅を出てからすぐに、農園の間を走る狭い静かな道を「ねこじやらし公園」まで行き、そこから九品仏淨真寺の境内の裏道を抜けて、自由が丘に向かつ行くその途中に目指す教会があります。この道のりは田舎的な雰囲気のする気分の爽快なところで、畑や植木畑や、雜木林が広く広がっている地域で、思わず少年時代のおおらかな

教会の創立六十周年の記念礼拝

私が通っている玉川神の教会の創立60

氣分を思い出させてくれるのです。こうして
礼拝に通じた道は、おのずから神様からの恵
みと癒しに包まれて、心身ともに淨化されて、
新たな力を授かるような至福の時間でもあ
ります。普段の勤労の毎日は、俗世にどっぷ
りと深く浸つてしまい、自分ではなかなか拭
い去れないことが沢山ありますが、雑念から
解放されてしばし十字架に向き合っている
と、魂の生き返りと解放感に漫ることができ、
再び生命力がふつふつとして湧き上がつて
きて、迎える新しい一週間と立ち会うことができ
ることとは深い喜びと感謝の何物でもあ
りません。ありがたいことですが、こうして
心からの感謝と静謐な祈りを用意されて、不
思議と礼拝堂に入る自分の姿があります。

玉川神の教会では三年前の春に著名な牧師であり学者でもある山口昇先生の後任に、宣教師として約30年前に日本に赴任して、神戸の垂水教会の牧師をしていたバーナー

ド・バートン先生が正式に牧師として専任することになりました。三年ほど玉川聖学院の院長をしておりましたが、今年四月に理事長を務めることになりました。牧師就任とともに愛妻のチエル夫人も副牧師に就きました。夫妻は流ちような日本語を使って、日本を中心として、国際的にも宣教、伝道の道を強烈、熱心に勤めていました。バートン師の「道」を行く逞しさは、荒れ野に立つパウロの姿を追うような信念の岩に立ち、情熱的なものです。又愛妻のチエル姉は明るく優しく、信徒を大きな愛を以て包み込む清楚な人柄でした。副牧師に就任後の間もなくチエル姉は癌を患い、バートン師の懸命な看病と努力と、医師たちの献身的な治療にもかかわらず、二年後に天に召されました。その悲しみは多くの人たちの心に深くきざまれて、忘れ得ざるものですが、チエルさんは皆に親しみ深く温かく、微笑みながら、神のみもと

に行く喜びを私たちに云い残して、永遠の命に戻つていかされました。文字通り神のしもべとしてチエルさんの人生は、愛と光のなかに一生を全うされたものです。一人になつてしまつたバートン先生ですが、心のうちの深い悲しみを打ち消して日々の言動に表すこともなく、いつもイエスのみことばを取り継いで、そのみここをいみじく実践されています。礼拝での情熱的な真摯なメッセージは、あたかも神のみこころと力が牧師の体に乗り移つたようです。同時に、愛妻のチエルさんの面影を重ね合わせて、私は見ることができます。それは信仰と宣教の道を歩む、愛と光の面影が、バートン牧師の上にも注がれているからです。その愛と力が神の深遠な御言葉の取り次ぎに、ご自分の生命をもやし続けてきている原動力となつているのでしよう。それからの大いに燃え盛り、迫真的気迫に満ちた信

仰生活と伝道の毎日を続けておられます。今年5月からアメリカにわたり各地の教会を巡つて宣教活動に精力的に専念され、先週帰国され再び力強く講壇に立つておられます。この日の礼拝では創立60周年を記念して、玉川神の教会の名誉牧師のフイリップ・キンレイ先生がみことばの取り継ぎをしてくださいました。キンレイ先生と云う名前は随分と昔から耳にしていて聞き慣れた名前ですが、背丈の高い、年齢も83歳になられましたが尚かくしやくとして、かつ気品に満ちた人柄です。心静かな優しさで、皆から親しまれています。娘の明子がこの教会に属する「子羊幼稚園」に通つていたころに、この幼稚園の園長さんをしていた方が、キンレイ先生でした。そうした理由で私は35年前に一度、キンレイ先生に会つたことがあります。ちなみに腕白小僧の息子の裕介の幼稚園は、すぐそばの九品仏幼稚園でした。広い境

内の中に立つ二階建ての大きな園舎があつ

て、遊びまくつていた腕白時代を過ごすには格好の、優れた環境にあつたというべきでしょ。住職が厳しい修行の延長と考えて、園児の教育指導に当たつていたといわれています。元気に走り回る男の子は、それでいいのです。家内は女の子の明子については、キリスト教的教育を植え付けたいと考えていたようです。そんなことがあって明子は、小羊幼稚園に二年間楽しく通つていました。その時、私はクリスマス・イブの舞台で、サンタクロースを演じて園児たちにたくさんの中、プレゼントを配つたことが昨日のように思ひ出されます。サンタクロースの演出を予定していた父兄が都合が悪くなつたので、急遽私が代役として頼まれてやつたことも、楽しいひとこまとして思い出されます。純真な子供たちを相手に、大きな袋にお土産を沢山詰めて、今でもサンタクロースの役はやり

たいと思つています。

ところでキンレイ先生はこの日の祝賀のために、飛行機を乗り継ぎながらアメリカの中部アンダーソンからお祝いに駆けつけてきてくれたのです。説教の題は、「わたしにとどまりなさい」という内容のメッセージでした。わたしとは、イエスキリストの指しています。物静かな語り口調でわかりやすく、イエスの言葉がそのまま心に呼びかけて来るようで、しみじみと受け入れられるものでした。私は妻と一緒に前の方の席に並んで聞いておりましたが、キンレイ先生の言葉が子守唄のように聞こえてきて、その調べについて誘われて、みことばの取り次ぎを、昔聞いた母の子守唄を聞くような気持になつてうつとりするうちに白河夜船をしばらく決め込んでいたことに気づきました。こんな至福の時は、私だけのものに違ひありません。

負け惜しみではありませんが、十字架を前

に安穏の心境で聞くイエスの御ことばには、快く惹かれてまことに心を振り動かされるものがあります。「三つ子の魂百まで」の日本伝統的教訓ではありませんが、その時に胸に抱かれて聞いたと思われる母の「振り籠の唄」の甘い調べのように、私の気持ちを快いものにいざなってくれるのです。素直な気持ちになつて真実の言葉を聞くことは、何という喜びで消化。妻はこうした際には決して指をついてたりして、たき起こすようなことはしません。私が普段から仕事で疲れていることを思わずばかりの配慮だと思いますが、しかしこうした時のイエスの言葉は、私が特別に許されて聞くものであつて、イエスによってわたしが癒されている瞬間と受け止めているようです。勿論私も心得ていて、辺りかまわぬ白河夜船を決め込んでいるわけではありません。尿意をも擁して頻繁に席をたたりしてくると全く別の問題になつ

てきますが、幸いなことに健康的にも年齢的にも恵まれた状況にあるので、体質的に養分の摂取能力も人一倍あるので得をしています。私が一番欲張つて、一番実り豊かに、イエスのみことばの恵みと力を頂いてきていくと信じて疑ひありません。そして夢と希望に燃えたその心境を沢山和歌にしたため、イエスに心から感謝しております。これを見て、とめてくださる方には、さらに大きな将来の展望と力を差し上げることができていると確信しております。そして、精神的にも肉体的にも「人間贊歌」の毎日を過ごすことができれば、これに勝るものはありません。

この日には又、畏敬する牧師の神田英輔先生にお会いすることが出来ました。神田先生は前にも国際飢餓対策機構で長いこと活躍されていましたが、三年前に退かれました。東北大震災の時にはいち早く現地に飛び、危

険をいとわず救援活動に従事され、大きな感銘を受けたメッセージは、わが昭和経済に掲載されて多大な感銘と影響を与えた。現在は「声なき者の友の会」を主宰され、実践活動をキリスト教の信念として第一線で奉仕活動を行つてゐる、まさに実践的クリスチヤンの先駆者です。久しぶりに会えたことを感謝して、一足先に出かけた妻からの連絡で「神田先生がお見えになつてゐる」とのことでしたので、昭和経済と、短歌同人誌・淵を持つて出かけ感謝して差し上げました。

札拝後は「玉川神の教会」の創立60年を記念して、第二部の愛餐会が開かれました。この日は敬老の日でもあつたので、重ねてお祝いの行事がありましたが。信徒が持ち寄つた自慢の料理が沢山並べられて、豊かな秋の実りの季節を感じましたが、しばらく歓談・祝賀の後、私は次の大事な用事が控えてあつたので途中で失礼しました。

案じられた台風18号の接近でしたが、途中から日差しが射したりして、この日はどうにか無事、激しい雨、風に会うこともなくつがなく時が過ぎたことは幸いでした。相変わらず大量の雨を含んだ台風18号は、今夜から本土に接近して本邦を直撃、そのまま台風は本邦を縦断して東北地方を荒れまわつていく気配です。だとすると台風は今晚から明日一日、大荒れの模様となつて大雨被害に備える必要があります。各地に大雨洪水注意報が出されていますが、大型台風の本邦上陸だけに心配であります。既に今年の夏の驚異的猛暑は峠を越して、次第に秋の気配ですが、台風一過の後は、秋晴れ続きの空となつて、天気晴朗の本格的な秋を楽しむことになるでしょう。異常気象の続くさなかであるだけに、どんな規模のものが、台風の目が膨張変形し、想像外に急変して悪質化する可能性も無きにしもあらずです。台風の被害が少な

く済むように、祈るばかりです。

*

昨日から地元の玉川神社でお祭りが開かれています。妻を誘つて玉川神社に行つてることにしました。空模様を見ながら夕方暗く

なりかけたころに出かけていき、人の群れに混じつて玉川神社に行つてみました。境内には所狭しと屋台の店が沢山出でていて、明るいランプが賑やかに灯されて、人出も多く活気に満ちていました。夜遅くまで少年少女たちが群がつてゐるのには驚きましたが、別に不良じみたところはなく、大きな笑いに包まれた雰囲気には、つい童心にかえつて、私も仲間に入りしたいような気持にもなりました。

ところが今日はお天気の予想が大雨到来と云うことで、強行すればできたかもしれないせんが、地元の玉川神社の秋の例祭に出る、お神輿の町内渡御が中止となつてしましました。毎年のこと拙宅の玄関前で、町内を渡つてきたお神輿が休憩して、その間、飲み物や食べ物が担ぎ手に振る舞われるのですが、今年はその賑やかさも台風18号のせいでお預けとなつてしましました。お向かいの小池さんの屋敷の庭の前には、「おみこしの担ぎ手を募集しています」との知らせの看板が事前に立ててありました。家内がそれを見て、

お父さん、募集に応じて見たらと促してくれましたが、昔取った杵は、浅草三社祭の三之宮とくれば、自然と腕がむづいてきますが、いい年をして、いまだに何だといわれかねません。せめてもの奉仕と償いに、例年通り拙宅の玄関先にお神輿が回ってくるので、休憩場所に拙宅の玄関先を広く開放して、しばらく皆さんに寛いでもらっているのです。

この日も私はあらかじめ車を他に移動して、きれいに掃き清めて待機していましたが、その思いは空振りとなってしまいました。台風襲来、土砂降りとなつては神輿担ぎもままたらないこと、玉川神社の御託宣は、気持ちの優しいお祓いを示してくれました。これが浅草の三社祭だったら、そんなことはお構いなしです。土砂降りの雨が降ろうが嵐が来ようが、お神輿はずぶ濡れになつて氏子に担がれていきます。私も長い氏子をして町内に回ってきた神輿を待つて、粋な花棒を狙つて

肩を入れていましたが、土砂降りの中をずぶ濡れになつて担いでいたことがあります。お神輿を担ぐときの気概は、何時でもどこにあつても変わりません。そういえば今年の浅草の花火大会も大雨が降りだして始まつて間もなく中止になつてしましましたが、前代未聞だつたそうです。そろはいつても、花火だけは雨の中を打ち上げるわけにはいきません。花火が湿氣でしまつては花咲かせるくともできません。仕方のないことで、見物にやつてきた人たちにとつてはがつかりだつたでしよう。私が浅草を出て等々力に移つてきて30年以上たちますが、玉川神社の今日の神輿担ぎの中止、こんなことも今までになかつたことです。この頃、日本の各地での異常気象の影響も、思ひもよらない様ざまなところに出てきて悪戯していることが分かります。

九月十五日

主とともに歩む我が身に怖れなし愛と光の
なかを生きゆく

玉川の神の教会祝賀会むとせの歳を今にき
ざむに

むとせ経し創立記念礼拝に神田牧師に相ま
みえけり

滑らかな口調に語る意義深きキンレイ牧師
のみことばを聞く

聖さんの儀にイエスの食卓に招かられけふを
喜びあへり

九月十五日

月下美人

友人の三井さんから預かつた大きな鉢植
えの月下美人の花が、今日が明日の夜にも咲
きそうな気配である。住まいを新築するため

旧家屋の解体工事が始まつた三井さんから

大切なものとして預かつたもので、二か月前
から庭のテラスに置いてあつたが、まさか月
下美人の花の木とは知らなかつた。台風12
号の嵐が来るかもしれないから、家中に置
いてもらえないかと云う三井さんからの電
話があつて、帰宅後、玄関の間に移してやつ
た。改めて良く見ると、一枚の分厚い葉っぱ
のひと隅から、鉛筆ほどの太さの蔓が5セン
チほど伸びてきて、先に小さなつぼみがつい
ているのに気が付いた。開花の頃になると動
く植物とでもいおうか、これが、2、3日す
るうちに、みるみる大きくなつてくるのが分
かつた。鶴のように長く伸びた首先に、小さ
いつぼみが膨らんでくる様子が目に留まる
ほどである。大小合わせて全部で6つのつぼ
みをつけているのが分かつた。遠い昔のこと、
知人宅で一度だけ月下美人の花の咲く時を
見せてもらつたことがある。

月下美人は夕方、日が暮れてから夜にかけ

て咲きだして、深夜の十二時ごろに全開して、その夜のうちに息を引き取り、はかない命を終えてしまふ花である。その最後の時は、煌々とした月の夜に白い羽を広げて空高く、まるで天女かシラサギが遠い世界に飛んで行つてしまうように思えてならない。引き止めようとしてもかばわず、宿命的なものを感じないわけにはいかない。連想していると、何ともはかない命を誇らしげに、この世の華と開かせる月下美人は、怪しくくらいにふくいくとした香りを放ち、純白の花びらを広げて筆致しがたきまでの華麗絢爛の趣きに、思わずその生き様ざまらしきものに心を奪われてしまうのである。開ききった時の花の命を完璧に全うし、深いため息から放つ匂いは強烈である。今日の夜に咲くよりも、明日の夜浅い時刻から咲いてもらえないかと祈っている。と云うのも、明日の晚餐に、わたしの教え子でドイツ人のラインハルト、

君が美人の妻のエリザベートと、彼らの小さな家族を連れて拙宅に来ることになつていいるので、できれば、あしたの夜に定まつた時間に、この月下美人の優雅に怪しく咲き誇る純白の花の様子を、ぜひとも見せてやりたいという思いからである。

思えば明日は仲秋の名月である。青く澄みきつた秋の夜空に、銀いろに輝く月の下で、滴り落ちる月の光を浴びて、静かに息をして咲く純白の花の、何とも言えぬ妙なる取り合はせではないだろうか。静かに更けていく秋の夜に、神秘的な息づかいを感じないわけにはいかない私の心には、秘めた秋の夜のささやきと、いざないの時が訪れている。

九月十八日

家庭内の犯罪

男女同権だから、両方の立場に立つて言えることで、良夫は家の宝も然りである。飲んだくれの亭主で、飲む、打つ、買うときたら、通俗的には男の甲斐性にも聞こえるが、こんな亭主にありついたらそれこそ六十年の不作である。悪妻は六十年の不作ともいうけど、たとえば悪妻とは一体どんな人を指して云うのか思いつかないところを見ると、物凄く手におえないのだろう。しかも六十年と云うことは、一生と云うことであって、機械でいえば必要で稼働する間でも補修も修正も修繕もできないと同様、ポンコツ同様の役立たずの、粗大ゴミと云うことなのだろうか。

最初のなれそめを考えたら、とてもじやないが想像できない光景だが、お互い飽きが来たら仕方がない。相手の欠点が浮き彫りになつて、馴れ初め時あばたもえくぼどころではない、痘痕は痘痕であつて、痘痕はえくぼではないという認識を相手について考えるようになつて、全てがはげ落ちてしまう。年を取るにつれて肉体のたるみも出てきて、亭主の方は腹デブの不格好なさまだから、猿ではないが、両方とも相手の尻の赤さを笑つているようなもので、こんなはずではなかつたというわがままな結果で、亭主も、上さんも糠味増臭くなつて、しまいには近づくのも、顔を見るのも嫌だという羽目になつてしまふ。そこはいまさら愚痴を言つたところでどうにもならないと、我慢と、愛和と、寛容の精神を以て、などといったところで馬の耳によいということになる。別れ話が起きて、う

まく話が進めばいいがそうでないと喧嘩になつてしまふ。

念仏の状況で、もしかすると後ろで悪玉の悪魔か、善玉の神様が糸を引いているとしか思えない関係になつて、結果の良い指しは別として、両者の関係はおじやんとなる。こうして見ると、男と女の関係は、昔から合縁奇縁であつて、なるようにならんと云うことかもしれない。しかし一緒にになつてみないと本当のことはわからないし、本当のことが分かつたからと云つて、それではさようならと云うわけにもいくまい。

一番厄介なことは、所帯を持つていながら愛人、好きな相手ができることができて生理的、本能的恋におちること、そうなると恋は

盲目で滅茶苦茶になつて何をするかわからぬ。草津の湯につかつても直せないかもしれない。若者に限らず、老いらくの恋もあるから、考え方によつては痴話げんかの取組み合いとなつて、それを見ている子供には決していいものではない。子はかすがいと

云うけど、何本ものカスガイがあつたにしても、最早手が付けられない重病患者である。親がだらしがなく、動物的になつて欲望をむき出していくと解決の道はないだろう。家庭の破壊にもなる。こうなると人間的にも欠陥車であつて、既に恐らく社会的にも大した活動も果たせない代物である。会社でものけ者にされてしまうだろう。家を出た後も人との関係もうまくいかず、ましてや競争社会とくればなおさらのこと、評価表を突き付けられて、厳しい扱いを受けなければならない。繕う暇もない。厳しい目を向けられて、悪事千里を走るで、世間は広いようで狭い。

家庭がしつかりしていないと、男にとつては生涯をかけた事業もうまくいかないのは当然である。だらしない体形になつて信用を失い、第一取引先が信用しなくなつてくる。銀行はもとより仕入れ先、販売先、挙げ句には会社の従業員までが染まつていつてしま

うことにもなる。確りした家庭の男の仕事や事業は、倒産する確率は極めて低いことが、統計上立証されている。当たり前なことが当たり前に処理することのできない人は、世の中にたくさんいる。他力本願ではなく自力本願の、しっかりとした処方術、処方箋を身に着けることも、人間としての日々の修行ではないだろうか。

最近のテレビ報道で出てくるのが忌まわしい家庭内暴力、そして想像もできない親族間の人を殺めた犯罪である。倫理、道徳教育の欠如も大いに原因するところだが、こうした事件や犯罪をむやみやたらに報道する姿勢にも問題があつて、もともとの犯罪予備軍を刺激して事件を誘発する結果にもつながる。そうした点で、最近の低劣な報道規律に軽率感を覚えるのである。同じ事件を未解決

と称して幾度も繰り返し報道する姿勢には、聊か食傷氣味になつて嫌悪感を覚えてきている。低劣な娯楽番組で視聴者の悪弊化した興味を矢鱈と煽るような番組が後を絶たない。およそ感性を高め、品位を養うような番組や報道がないことは、言論の自由とは言え、度が過ぎる場合は、子どもの情操教育に大きな弊害をもたらしている。良質の番組をいくら提供してもらつても、愚劣な僅かな番組報道で全体の苦労が水の泡となりかねない。きれいなコップの水も、汚れた一滴の污水で濁ってしまうものである。悪事千里を走るの戒めがあるが、とかく悪いことはすぐに伝播し染まりやすいものである。しかば良き仕事を積み重ね、世の中に警鐘を発して啓発すべく、経営者の品位向上にも努めてもらいたいものである。

そうした影響は、大人の社会でも無意識に出来てきている。北海道JRの頻発する事故の

糸明に立つた社長が、だらしない弁明に終始する有様は、人命を預かる企業の組織のトップに立つ人とは思えない体たらくである。東電の社長も然り、能力欠如も甚だしき限りである。いずれも事故を起こしていながら、自己責任を回避し、気が付かなかつたので收めようとして、改心の跡が見られない。良識なし自覚なしの無責任者であり、厚かましき振る舞いは言語道断である。トップがこうだから下々は云うべくもないだろう。いくら大きな組織を持つていても、トップの教養と品格が欠如していると、組織を統治し、コントロールすることはできない。組織も次第に右に倣えで悪弊は全体に蔓延し、企業統治はおぼつかなく、不祥事、事故の頻発はさもありなんである。失礼かもしれないが、彼らの家庭はどうなつているのか参考のためにも知りたいことだが、個人情報と人権侵害にあたつたりしてこれはやばいかもしねない。

かくのごとく報道に關する限り、こうした実態を報道することは、直接、間接に於いて世の人々に大きな警鐘となつて有益なところもある。娯楽番組とは言え例えればの話、くだらない大食い、早食い競争など番組としては愚劣、低劣であり、見識を疑うものである。野次馬も加わりただ騒がしいだけで無味乾燥なものもある。同じ役者がばかり演じ繰り返し、低劣なままマンネリに墮ち、その結果は嫌悪感すら覚えてくる。新鮮味に欠けはなはだ馬鹿げたものである。世間にはもつと取り上げて、掘り下げなければならない問題、我々視聴者が見聞したいと思つてゐる課題が沢山あるはずである。バランスを考え画面のチャンネルを回せるようにしてもらいたいし、狭い世間のことも大切だが、それ執着するあまり、広い世界の動きを知らしめることを怠り、忘却されたのでは、グローバルに立ち向かい競争の激しさを克服して

いかねばならない人たちにとつては無味乾燥であり、迎合的であつて、報道の使命を全うすることはできない。澄んだコップの水も、一滴の濁りで水は汚くなる。影響力の大きい報道関係ゆえに、横の広がりと、立ての高さを求めて全体のレベルアップに努め、広く視聴者の涵養と教育と啓蒙に努めてもらいたいものである。

九月二十五日 続

シリアの化学兵器

化学兵器を使わなければ戦争を続行してもいいのかといった矛盾が、独り歩きしていくても困る。国連の安全保障理事会に化学兵器の全廃を義務付ける決議案が、シリアに対し行われることになり、シリアはこれを受け入れることになった。シリアの蛮行は現地の戦場で凄惨を極めており、化学兵器を使つ

て民衆を虐殺した証拠は確実になつて、安保理で決議されることになつた。大国が一致して大局的に行動すれば、世界の秩序は懸命に維持されるはずなのに、利己的行動に走つてはいるから、小国の争いと不安を断ち切ることができないでいる。言うなれば大国が操つて小国同士の対立抗争に、裏方で思惑に走つている大国同士の図式が鮮明で、小国はいつもその犠牲になつているのが、現状である。あさもしい気持ちを持たずに、堂々とした気概で事に当たれば、外交交渉は成就するものである。

シリアの化学兵器の全廃にこぎつけたのだから、さらに踏み込んでシリアの内戦を中止させなければならないまい。今のロシアのプーチンなら穏やかにアサドに言って、攻撃中止をやめさせられないことはない。いい意味で政治的圧力をかけてアサドをものにすることができる。オバマだと力でこれを決着させ

る以外にその手立てはないので、皮肉で結構な話になつてしまふが、今のところは面白い力関係の構図になつていて、ここはブーチンの腕の見せどころである。世界的状況は両国

にとつて利害が一致しており、時に話が合つて仲よくすることもできるのだから、この際はオバマとブーチンが手を組んで、シリアの内戦を解決することができるはずである。そうなれば、これは世界の構図の大転換の発端になりだらう。

無益な戦争で両者を傷つけ合い、戦費の浪費を図る代わりに、国民の平和的生産と消費に向けて、大転換をはかるのであれば、新しい世界の構築に両巨頭の功績は人類不滅のものとして歴史にその名が刻まれるであろう。大国の指導者が、その気になつてやれば、決してできないことはないのである。アメリカとロシアが手を組めば、世界は政治的にも経済的にも、宗教的にも対立抗争の図式は次

第に緩和されて、明るい人類の住處となるに違いない。中国だって同じこと、同じ理屈である。

それを象徴するようにイラン大統領の選挙の後のイランの変化は、同じように世界の流れを変えてくれるに違いない。イランと米が直接待羽を行うのは一九七九年の米大使館人質事件以来のことと三十四年ぶりである。イスラム教の教義の厳格さはあるが、宗教的対立ほど馬鹿げたことはない。平和と人命を、神が希望し保障することの意義を、宗教間の一致で見なければ、宗教の本質的教理にも反してしまうことになる。人間の信仰は壮大厳肅なものであり、薄っぺらなものではない。宗教に関し、イランと、イスラエル・アメリカの対立構造に見られるように、しかし信仰と宗教の基本的路線は、そして目的は、人類の愛和の精神を通して、より安寧の次元

の高い世界を築くことにあるはずである。そこに神の存在があり、しかも神の意志と目的は普遍的かつ一つである。

人類は宗教を通じて対立するのではなく融合、統一されるべきものである。近年経済的格差は、経済発展と同時にますます大きくなつてきているが、宗教的観念が高度の意識をもつてすれば、これをも解決していく課題と可能性を秘めており、穩健且つ人道主義的な手法を以て解決しやすいものとなるであろう。宗教の本格的出番はそこにあるといふべきである。いくつもの宗教があるが、そしていくつもの教理と宗派があるが、神の意思と目的は一つである。一つに收れんしていけば人類の、国家の対立抗争は無くなつてくる。い。イランと欧米との対立は、キリスト教とイスラム教との長い歴史的対立である。根深

い宗教的対立と歴史の溝を埋めるオバマとブーチンは、この神の意志に一步近づいて、人類の救済に手を貸したことになる。立派である。核開発と原爆製造の疑惑で対立し、一触即発の危機を常に持つてきたイスラエル・アメリカとイランが対話路線に踏み出したのも、良き兆候である。世の中が戦闘的武器の製造に躍起にならずに、その資本を建設的方向に使つていくならば、この地上から貧乏を追放しすることができる。経済格差を是正するグローバルな結果ともなるだろう。

経済的自由競争を基盤として、話し合いの国家間の構図を強化し、民間企業の活躍を期待し、小さな政府を築き上げていくことが出来よう。経済学者で恩師の堀江忠男教授がかつて、人類と国々は、矛盾を制し一つの世界をめざた歴史的潮流が必ず来ると、多くの学徒に教えていたことをふと思いついたのである。ソビエト共産主義は解体し、中国は市

場經濟を導入し、歐米は獨占資本主義の帝国主義から脱却し、新しい技術革新のもと厚生経済学的要素を取り入れて、経済社会の機構を改革しつつ人権の尊重をうたい上げながら福祉国家へと変貌しつつある。経済発展の歴史の上で、資本主義、共産主義の相対立てきた構図は自力で修正しつつ、その上で相互の利点を吸收しあつてきた。世界は、お互に接近し融合を試みてきており、これからもその先の道を進んでいくことであろう。近時の世界の硬直した構図から、解き放なたれしていくような気配に安堵して、希望を以て考え及んだことである。

そこで英知ある日本国と日本民族が、国際舞台で大いに活躍する政治的、経済的、文化的活躍の舞台の幕が上がつてくる。それは核兵器を所有する以上の、話し合いによる実践的平和外交の活躍する華々しい舞台である。

九月二十八日



作品 関根常雄

表紙絵のことば

シェークスピアの生家

関根 常雄

を残しています。

ストラトフォード・アボンエイヴォン
はウイリアム・シェークスピアの生れた
町の名です。

シェークスピアの話など私にはとても
手に負える話ではないのですが、彼の父
親が手袋を作る職人であった事を知り、
関心をもちました。信じ難いことですが、
シェークスピアの学歴は初等教育で終わ
つてゐるのです。文豪としては驚きです。
十六才の頃、単身ロンドンへ渡り、その
後一五九〇年頃から劇作家としての名声
を手中に收めました。彼は五三年の生涯
のうち、三十七編の劇曲と、三編の詩集

一五六四年、シェークスピアはこの家
に生まれて多感な少年時代を家族とともに
過ごしました。初等教育を終えた後、
一六才までの間にどの様な教育を受け、
何を学んだかが、私にとつて非常な関心
事です。当時の職人の生き様は想像に値
いします。神のみ知る天才児童なのでし
ょう。生家には實際彼が使用いたもので
はないが、建物の内部には一六世紀の家
具調度類が忠実に再現されて居りました。
その上に父親の手袋作りの職人時代に使
つていた仕事場も再現されております。
私共の使つている、ばん板、アイロン、
ハサミなど、当時手仕事の様子が伺い知
れます。建物は今日までに何人もの人手
にわたりながら、今世紀まで残り、ロイヤル・シェークスピア劇場を中心発展
して來てゐるのです。町はシェークスピ

ア一色に包まれ、ゆかりの地を巡るだけで十分です。脇には、エイヴォン川が流れおり、文豪が眠る静謐の場所があります。

ホーリー・トリニティ教会があり、一六一六年に五十三才で亡くなつたシェークスピアは、洗礼を受け、幾度となく礼拝に通つたこの教会に埋葬されて居ります。妻アン・ハサウェイ、娘スザンナもここに葬られています。

シェークスピアの墓は中央祭壇の手前にある、その近くには、洗礼と埋葬の記録が残る教会録薄のコピーも展示されています。世界的な文豪の墓所にしては質素という印象でした。彼は自分の死後が荒らされることのないよう墓石に戒めの詩を刻ませたそうです。

平成二十五年十月二十七日印刷
平成二十五年十月三十一日発行

昭和経済 第六十号

佐々木 誠吾

編集人
兼发行人

印刷所 日本印刷株式会社

発行所 公益社団法人

昭和経済会

事務局

〒104-0016

東京都中央区八重洲一丁目十一番

TEL (68-110) 6000番
FAX (111-71) 3104番

e-mail:info@showa-rec.or.jp
<http://www.showa-rec.or.jp/>

月刊誌掲載者・昭和経済論文（敬称略）

昭和五十三年（平成二十五年十月）（重複有り）

大内義一 早稲田大学名誉教授（巻頭隨筆）

荻原伯永 （株）日本経済社 日経専務

牛場信彦

外務省顧問

広瀬嘉夫

参議院議長

安井謙

慶應義塾大学教授

加藤寛

NHK解説委員

豊原兼一

参議院議員

斎藤栄三郎

NHK解説委員

岡村和夫

桂川精螺製作所 社長

石井義昌

組織工学研究所所長

糸川英夫

通産省産業政策局長

宮本四郎

（社）日本中小企業団体連盟

安井謙

前参議院議長 自民党顧問

大来佐武郎

对外經濟関係 政府代表

藤原弘達

政治評論家

堺谷太一

作家

原田正二 大正大学教授

豊田雅孝

当会顧問

窪田真也

第一勵業銀行産業調査部長

宝生あやこ

劇団手織座

山本幸助

通産省産業政策局長
産業資産課長

山田勝久

通産省商政策局国際経済部長
通産省電子政策課長

岡松壯三

村山祐太郎
鈴木金属工業副会长

寺島祥五郎

当会理事

堀江忠男

早稲田大学名誉教授
画家

安井謙

当会顧問 自民党最高顧問

田山晃

元 読売新聞政治部次長

鈴木三子郎

元 税務大学教官 税理士

竹下登

大蔵大臣

福田赳夫

衆議院議員

斎藤榮三郎	商学博士 法学博士 文学博士	水谷研治 東海総合研究所 理事長
河野洋平	参議院議員	バツラフ・ハベル チエコ大統領
前川春雄	衆議院議員	平野憲一郎 日本経済新聞 マニラ市局長
黒田眞	前 日本銀行総裁	吉田和男 京都大学教授
堀江忠男	通商産業省 通商政策局長	石川忠雄 慶應義塾大学名誉教授 学長
水谷研治	大月短期大学学長	中曾根康弘 元首相
鈴木俊一	東海銀行常務取締役 調査部長	中山素平 日本興業銀行 特別顧問
田村次朗	東京都知事	北岡伸一 立教大学教授
日良浩一	米国企業公共政策研究所 所長	島田晴雄 慶應義塾大学教授
行天豊雄	東京国際大学教授	吉田和男 京都大学教授
吉川洋	東京銀行会長	塩野谷祐一 一橋大学名誉教授
竹中平蔵	東京大学教授	宮沢喜一 元首相
加藤寛	慶應義塾大学教授	山田伸二 N H K解説委員
原田和明	三和総合研究所 理事長	石井明 東京大学教授
鴨武彦	東京大学教授	千葉商科大学長
大山晃人	東京国際大学教授	政府税制調査会会长
元 N H K解説委員	伊藤裕章 朝日新聞ワシントン特派員	小宮隆太郎 東京大学名誉教授
企業コンサルタント	青山学院大学教授	井浦康之

島田晴雄	慶應義塾大学教授	ランコ岩本 ランコ・インター・ナショナル代表
樋口廣太郎	アサヒビール会長	ジェームス・D・ウォルフエルソン
奥野正寛	東京大学教授	世界銀行総裁
橋本大二郎	高知県知事	シモン・ペレス イスラエル外相
福川伸次	電通総研研究所所長	山口光恒
鈴村興太郎	一橋大学経済研究所教授	慶應義塾大学教授
清水啓典	一橋大学教授	岡崎久彦 元駐米公使 駐タイ公使
高橋伸彰	立命館大学教授	ボーラ・サミニュエルソン 経済学者
中谷巖	一橋大学教授	大野健一 政策研究大学院大学教授
金大中	韓国大統領	佐々木和男 サウディ石油化学㈱社長
佐和隆光	京都大学教授	ドナルド・ラムズフェルド 米国防長官
茅陽一	慶應義塾大学院教授	イアン・ジョンソン 世界銀行副総裁
吉田和男	京都大学教授	竹森俊平 慶應義塾大学教授
榎佳之	東京大学 医科学研究所 大学院教授	朱建榮 東洋大学 経済評論家
高橋伸彰	立命館大学教授	アレクサンドル・パノフ 駐日ロシア大使
月尾嘉男	東京大学教授	林光夫 ナショナル日系博物館ヘリテージセンター 理事(前理事長) 日系プレース基金理事
北岡伸一	東京大学教授	ハワード・H・ベーカー 駐日米大使
石原慎太郎	東京都知事	山本清治 経済評論家

スティーブン・ゴマソール 駐日英國大使	佐藤隆三	ニューヨーク大学名誉教授
山口義一 立教大學經濟學部教授	東京大学客員教授	
公文俊平 多摩大學情報社會學研究所所長	曾根泰教	慶應義塾大學教授
伊藤元重 東京大學教授	平野雅章	早稻田大學教授
アルビン&ハイディ・トフラー	若田部昌澄	東京大學教授
中曾根康弘 元首相	山内昌之	大西隆
ハワード・H・ベーカー 前駐日米大使	浜田純一	東京大學教授
竹森俊平 慶應義塾大學教授	中西寛	高木新二郎
岡部直明 日本経済新聞 論説主幹	浜木新二郎	前産業再生機構委員長
加藤寛 千葉商科大學學長	中西寛	京都大學教授
山口光恒 帝京大學教授	高木新二郎	東京大學總長
斎藤惇 産業再生機構 前 社長	諸富徹	野村證券顧問
渡辺智之 一橋大學教授	入江昭	京都大學准大學教授
土屋堅二 お茶の水女子大學教授 (哲學)	林良造	ハーバード大學名譽教授
山崎正和 中央教育審議會 會長	クリスティーナ・アーマージャン	東京大學教授
福江等 前ナザレン神學大學學長	伊藤元重	一橋大學教授
井深記念塾ユーライ	今井賢一	東京大學教授
大田弘子 経済財政担当相	スタンフォード大學	名譽シニアフェロー

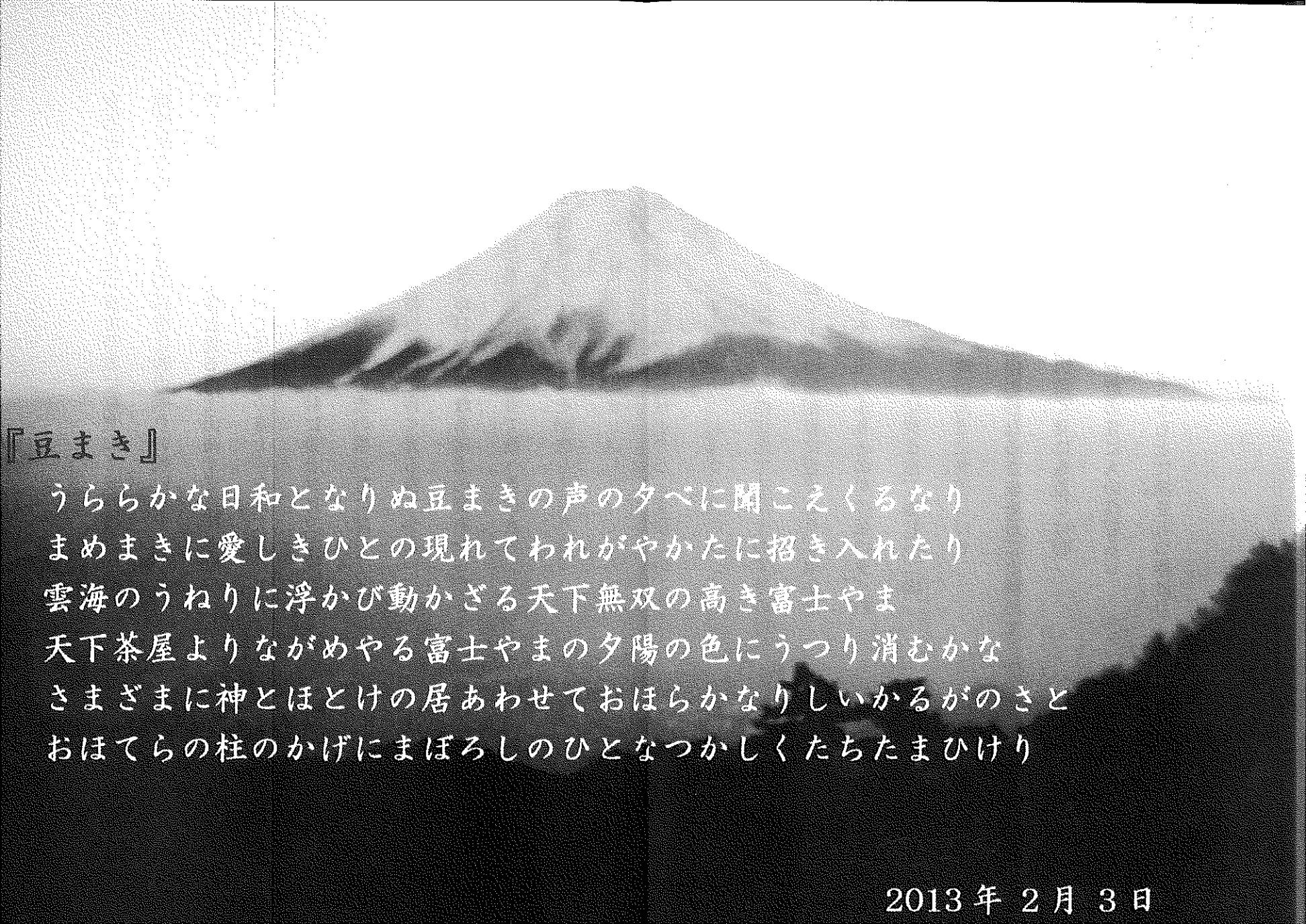
吉川弘之	東京大学 元学長	深尾京司	一橋大学教授
池尾和人	慶應義塾大学教授	山本 熱	慶應義塾大学准教授
細田衛士	慶應義塾大学教授	小黒一正	一橋大学准教授
林 良嗣	名古屋大学教授	吉川弘之	東京大学 元学長
土居丈朗	慶應義塾大学教授	大村敬一	早稻田大学教授
脇坂 明	学習院大学教授	庄司克宏	慶應義塾大学教授
閔 满博	一橋大学教授	ジム・フレアティ	力ナダ財務相
古谷 浩一	朝日新聞記者	伊藤元重	東京大学教授
御厨 貴	東京大学教授	清家 篤	日本私立大学連盟会長
田中明彦	東京大学教授	藤原帰一	慶應義塾長
西垣 通	東京大学大学院情報学環教授	緒方貞子	国際協力機構（JICA）理事長
山内昌之	東京大学教授	田中素香	中央大学教授
高安秀樹	明治大学客員教授	申 珙秀	駐日韓国大使
浜田宏一	エール大学教授	加藤弘之	神戸大学教授
若宮啓文	朝日新聞本社主筆	新宅純二郎	岡部直明
植田和弘	京都大学教授	若宮啓文	日本経済新聞客員コラムニスト
松本 紘	京都大学総長	中沢克二	朝日新聞主筆
大西 隆	東京大学教授	日本経済新聞社	中国総局長
山中季広	朝日新聞ニューヨーク支局長		

猪木武徳	青山学院大学特任教授
長山浩章	京都大学教授
石川城太	一橋大学教授
鹿野嘉昭	同志社大学教授
岡部直明	日本経済新聞客員コラムニスト
篠崎彰彦	九州大学教授
翟林瑜	大阪市立大学教授
横山彰	中央大学教授
小林慶一郎	一橋大学教授
原真人	朝日新聞編集委員
若宮啓文	朝日新聞本社主筆
小林慶一郎	一橋大学教授
須藤繁	帝京平成大学教授
翁邦雄	京都大学教授
下斗米伸夫	法政大学教授
吉川洋	東京大学教授
渡辺博史	国際協力銀行副総裁・元財務官
澤田康幸	東京大学教授
北岡伸一	国際大学学長
有田哲文	朝日新聞編集委員
柴田直治	朝日新聞国際報道部
竹森俊平	慶應大学教授
磯田道史	静岡文化芸術大学准教授
橘川武郎	一橋大学教授
伊藤元重	東京大学教授
山内昌之	明治大学特任教授
白石隆	政策研究大学院学長
土屋英夫	日本経済新聞本社コラムニスト
当会・講演会 講師（敬称略）	
昭和五十三年（平成二十五年十月）	
堺屋太一	作家
栗栖弘臣	統合幕僚長
加藤寛	慶應義塾大学教授
糸川広洋	組織工学研究所 所長
大来佐武郎	対外経済担当大臣
齊藤栄三郎	科学技術省長官
柿沢弘治	衆議院議員

浜田幸一	衆議院議員	鈴木俊一	東京都知事
木元教子	評論家	黒田眞	通商産業省 通商政策局長
岡松壯三郎	通産省電子政策課長	上野明	野村総合研究所 主任研究員
稻川泰弘	通産産業省政策局	前川春雄	前日本銀行總裁
藤原弘達	商務サービス産業室長	大山昊人	NHK解説委員
山本幸助	通産省産業政策局長	野坂昭如	作家
岡松壯三郎	通産省生活産業局長	水野哲	通産省産業政策局
山田勝之	通産省国際政治部長	堀江忠男	産業政策局総務課長
鈴木幸夫	テレビ東京解説委員長	梅沢節男	国税庁長官
山室英男	NHK解説委員長	田川誠一	早稲田大学名譽教授
佐野忠克	通産省宇宙産業室長	森亘	東京大学総長
河野洋平	衆議院議員	藤井康男	龍角散社長
寺島祥五郎	当会理事	水城武彦	NHK解説委員
長富祐一郎	大蔵省官房審議官	大山昊人	NHK解説委員
中沢忠義	中小企業厅長官	斎藤栄三郎	国務大臣 科学技術厅長官
吉國隆	農林水産省大臣官房企画室長	内田満	早稻田大学教授
天谷直弘	(財)産業研究所 顧問	岡松壯三郎	通商産業省生活産業局長
元 通産省審議官	東海銀行常務取締役調査部長	水谷研治	

有馬朗人	東京大学総長	大山晃人	テレビ朝日ニュース・ステーション
松本和男	経済評論家	木村時夫	元 NHK解説委員
大山晃人	NHK解説委員	早稲田大学名誉教授	井浦康之
鈴木淑夫	野村総合研究所副理事長	元 日本銀行理事	元 日本銀行理事
松永信雄	外務省顧問 前 駐米大使	水谷研治	当会理事
霍覓芳浩	ニューヨーク市立大学大学院教	目良浩一	東海総合研究所 理事長
村松啖	慶應義塾大学名誉教授	山下龜次郎	筑波大学 臨床医学系内科教授
飯田健一	NHK解説委員	斎藤精一郎	筑波大学付属病院副院長
L・A・チジヨーフ	駐日ロシア連邦大使	岩國哲人	立教大学教授
大山晃人	元NHK解説委員	浅井隆	前 出雲市長
小浜維人	東京国際大学教授	岩田規久男	上智大学教授
青木匡光	NHK解説委員長	久保亘	経済ジャーナリスト
紺谷典子	メディエーター（人間接着業）	大山晃人	東京国際大学教授
（財）日本証券経済研究所	主任研究員	山田伸二	NHK解説委員
原田和明	三和総合研究所	吉田春樹	和光経済研究所理事長
和田俊	朝日新聞編集委員	副島隆彦	経済評論家
ボールシェアード	ペアリング投信投資顧問		

㈱日本株運用ヘッド兼ストラジスト	佐々木和男	学校法人静岡理工科大学理事長
田中角栄	元 秘書	元 三菱商事㈱本部長
N H K 解説委員		サウディ石油化学㈱前社長
中村敦夫	参議院議員	N H K 解説委員
原田和明	三和総合研究所特別顧問	三原 淳 経済評論家
西澤宏繁	東京都民銀行頭取	石川 一洋 株式評論家
亀井静香	衆議院議員	元 モスクワ支局長
山田伸二	N H K 解説委員	元 N H K 解説委員
武者陵司	ドマイエ証券チーフストラジット	元 東京大学教授
川崎真一郎	第一生命経済研究所主任研究員	山田 伸二 N H K 解説主幹
金子一義	国務大臣	中谷 元 元 防衛庁長官 衆議院議員
山口義行	立教大学教授	林良 造
山田伸二	N H K 解説主幹	渡辺 喜美 元 経済産業省 経済産業政策局長
斎藤精一郎	千葉商科大学教授	山崎 淑行 みんなの党代表 衆議院議員
伊藤 達也	元 金融担当大臣	中谷 嶽 一橋大学教授
高木新二郎	㈱産業再生機構 産業再生委員長	ロバート・フレルドマン 経済評論家・エコノミスト
斎藤精一郎	千葉商科大学大学院教授	月尾 嘉男 東京大学名誉教授
社会経済学者	㈱NTTデータ経営研究所所長	山田 伸二 N H K 解説主幹
		山内 進 一橋大学学長



『豆まき』

うららかな日和となりぬ豆まきの声の夕べに聞こえくるなり
まめまきに愛しきひとの現れてわれがやかたに招き入れたり
雲海のうねりに浮かび動かざる天下無双の高き富士やま
天下茶屋よりながめやる富士やまの夕陽の色にうつり消むかな
さまざまに神とほとけの居あわせておほらかなりしいかるがのさと
おほてらの柱のかげにまぼろしのひとなつかしくたちたまひけり

富士やま

佐々木 誠吾

夏雲のうづまきて立つ富士やまに稻妻白く光り曳きゆく
仰ぎ見る富士の高嶺の白雪に初の明りの映ゆる今朝かな
芦ノ湖の岸べに立ちて妻と見る富士山高く雲に突き出む
妻の手を引き芦の湖の岸に見る茜の富士の空に大きく
まほろばの里を見おろし富士山の峠に妻と共に立つ朝
富士山のふもとに湧きて曳き雲の光の帶の虹に輝く
ふり返る夜空の月に光帶び静かに青く光る富士やま
野分け去る夜空に青く浮びたつ妙なる富士の姿あやしき
おんだけ御岳の峰より眺む富士山の我に語りて教へたけきも
悲しさにふと仰ぎ見る不二山の我を励まし力与へん
寂しさに出でたつ我に富士山の励まし語りかけていみじき
富士やまの峰より野辺に風吹きて秋近きかと覚ゆこのごろ
秋の田の刈り終えしままかかし立つはるかに眺む不二の山かな
稻の穂のこがねはるかに波打ちて館のたてる富士のすそのに
あぜみちはるかに続く不二山の裾野に近くありし里かな
柿の実のたわわになりし不二山のふもとの里の秋の夕ぐれ
雲海の上につらなるアルプスの上に突き出て極む不二山
稻妻の引く富士山の下に見て峰の高きに光差しけり
この国まほろばに立つ富士山の妙なるさまを日^ひと眺めて
幸ひのみつる心に富士山の光の深く身にも差しけむ
長々とのどかに眺む富士山の裾野の先に人の住むらし
富士やまの水ふつふつ湧きいでてふもとに湖^{うみ}を五つ抱けり

講演会の主な講師

(講演時役職) (敬称略)

H 産	産	産	藏	H 小	應	學	織	本	學	田	本	士	大	
K 省	省	省	税	京	務	義	產	工	經	治	議	濟	濟	臣
解	產	國	官	銀	企	K	技	學	濟	藏	技	學	銀	内
業	業	際	活	業	解		省	術	護	研	新	評	院	閣
說	業	房	政	解				術	研	評	評	1		
委	業	政	策	學	長	知	顧	究	聞	大	院	研	行	總
員	局	局	議	長	長	委	顧	所	社	論	議	論	社	理
													頭	大臣
長官長官長官官事裁問家官員授家間官士長問家臣長官家長家事長取														

伊金山龜西早島副山久岩斎目原和小^ト霍松鈴有大水森堀水藤井大
通財務省省長担当藤子口井澤坂田島田保国藤良田田浜^ト見永木馬來谷江城井浦山
通財務省省長担当達一義靜宏茂晴隆仲哲一浩和維^ト芳信淑朗武研忠武康康昊
通財務省省長担当宣宦也義二香繁三雄彦二亘人郎一明俊人^ト浩雄夫人郎治亘男彦雄之人

通	大	内	國立	衆東政慶政	N	前	出	立	東	三	テ	N	駐	ニ	前	野東	對	東	早	N	龍井	N	
商	職	務	教	京	應	H	京	和	ビ	H	レ	ユ	駐	村	外	海	稻	H	コ	H	浦		
產	閣	大	議	都	治	義	教	綜	朝	日	ヨ	ミ	京	總	京	總	田	角	ミ	ュ	K		
業	政	總	臣	大	議	治	大	國	日	K	ト	大	合	經	合	合	K	ニ	ケ	ト	K		
省	政	策	理	學	民	塾	大	際	研	ユ	ク	使	研	市	大	濟	研	大	解	シ	解		
研究	大	業	院	評	評	解																	
研究	再	濟	銀	大																			
研究	会	生	學	說	市																		
メ	補	機	部	議	行	論	學	論	大														
ン	構	教	委																				
バ	佐	担																					
官當授員取家授家員臣長授授長 ^ト 長使授問長長臣長長授員長 ^ト 員																							

昭和経済 25-10・11月号

昭和25年6月24日 第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）
昭和25年10月19日 日本国有鉄道特別扱承認雑誌第1797号

Showa Economic Study Association
企業家・経営者団体

公益社団法人 **昭 和 経 済 会**

事務局 〒104-0028 東京都中央区八重洲2-11-2

TEL 6820-6000・3271-8846 FAX 3271-3104

URL <http://www.showa-ec.or.jp/>

e-mail info@showa-ec.or.jp